



ITC-J COUNCIL No.4

Sunny Side Letter
30th Anniversary

1988-2018

目次

Contents

- 01 ITC-J 宣誓・年間テーマ・カウンスル No. 4 第30期役員
- 02 ご挨拶
カウンスル No. 4 第30期会長 成 定 正 子
- 03-06 祝 辞
広島市長 松 井 一 實
ITC-J 第36期会長 西 村 みつ子
ITC-J 第16期会長 三 宮 晶 子
カウンスル No. 4 初代会長 桑 原 美紀子
- 07-09 他カウンスルからの応援メッセージ
- 10 第30期第1回会合プログラム
- 11-12 第30期第1回会合 リポート
- 13-16 第30期第1回会合 講演
「瀬戸内海の歴史を識る～海・島が織りなす瀬戸内海の歴史と風土～」
- 17 第30期第2回会合プログラム
- 18-23 第30期第2回会合 パネルディスカッション
「ITC-J を考える～次世代へ向けて～」
- 24 第30期第3回会合プログラム
- 25-34 第30期 所属クラブ自慢
- 35-42 30年の歩み 役員・年間&会合テーマ・会合プログラム
- 43-44 歴代会長による座談会「来し方を振り返り、今、成すべきことは？」
- 45 お便りと編集室から



インタラクティブ トレーニング イン コミュニケーション ジャパン
カウンスル No.4

サニー サイド レター
30周年記念誌

1988年 - 2018年

ITC-J 宣誓

我々 インタラクティブ トレーニング イン コミュニケーション ジャパン のメンバーは、世界中の相互理解促進のために、コミュニケーション技術と指導力の向上に努めることをここに誓います。

We, as members of Interactive Training in Communication-Japan, hereby pledge to improve our communication and leadership skills, in order to achieve greater understanding throughout the world.

ITC-J 第36期テーマ

You Raise Me Up

～やさしさと励ましのコミュニケーション～

カウンスル No. 4 第30期テーマ

未来に向けて共に進もう

～瀬戸内を囲んで～

カウンスル No. 4 第30期役員

会 長	成 定 正 子
第一副会長	前 田 利 子
第二副会長	時 光 育 子
書 記	島 村 忍
会 計	小 倉 千真理
議会法規役員	六 車 紀代子
編 集 者	米 門 公 子



ご挨拶

カウンスル No. 4 第30期会長 成 定 正 子

桑原美紀子チャーター会長のテーマ「Never Give Up!!」で始動したカウンスル No. 4 は、29期29名の会長の指導力の下、各期所属会員一人一人の協力、努力を紡いで、30周年を迎えることができました。心より感謝申し上げます。

30年間、カウンスル No. 4 という枠の中で、ITC の基本に沿いながらも、それぞれのクラブが特色を出して、お互い切磋琢磨しながら学んでまいりました。カウンスル会合は遠隔地に存在する他クラブの方と再会を楽しみにする交流の場となり、クラブだけではできない学びの場としても重要な役割を果たしています。

今期、ITC 国際の解散という、思ってもみななかったことが起こり、日本リージョンは名称を ITC-J に変え、新たな組織として出発致しました。カウンスル No. 4 は全クラブ迷うことなく、新組織に加わりました。西村みつ子 ITC-J 第36期会長の「You Raise Me Up」というテーマの下、今期の会長テーマは「未来に向けて共に進もう～瀬戸内を囲んで～」と致しました。第1回会合を30周年記念会合とし、安芸の宮島厳島神社を巡るクルーズ船「銀河」の船上で開催致しました。西村会長はじめ多くのゲスト・会員と共にお祝いできましたこと、感謝申し上げます。私たちは瀬戸内を囲むクラブであるという共通認識をより深くし、記憶に残る会合になったと思います。2月にはバイリンガル西条クラブが No. 4 所属となり、10クラブで新たな船出ができたのも嬉しいことでした。

こうした変動期を経験しましたことで、それぞれの会員が、創設者アーネステイン・ホワイト女史の理念について、また今後の ITC-J について、より深く、より真剣に考えられたのではと思います。No. 4 の30年間の積み上げた学び、会員の ITC-J を愛する気持ちを大切に、未来に向かって共に進みましょう！

最後になりましたが、30期サニーサイドを保存版30周年記念誌として発行できましたことは、皆さまの多大なご協力のおかげと感謝致しますと同時に、どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。



祝 辞

広島市長 松 井 一 實

ITC-J カウンسل No.4 の30周年記念会合が、広島市において盛大に開催されましたことを心からお喜び申し上げます。

皆さまにおかれましては、“私たちは言葉を愛し、優雅かつ流暢にそれを用いる”をモットーに、リーダーシップの養成やコミュニケーション能力の向上を目指し、さまざまな機会に学び、自己啓発や研鑽を重ねられるとともに、地域や国際社会において幅広く活動されるなど、素晴らしい成果を挙げてこられました。

30年という長きにわたって貴カウンسلを支えてこられた歴代会長をはじめとする会員の皆さまの熱意と不断の御努力に深く敬意を表します。

本市では、「世界に誇れる『まち』広島」を目指し、世界中の人々が一生のうちに、一度は訪れてみたいと思う「まち」、そして、そこに暮らす人々の生き生きとした営みがある「まち」に向けて、活力とにぎわい、ワーク・ライフ・バランス、平和への思いの共有の3つを柱に、さまざまな取り組みを推進しています。

こうした中、貴カウンسلが30周年を迎えられたことは意義深く、皆さまが各分野でリーダーとして御活躍されることを期待するとともに、「世界に誇れる『まち』広島」の実現に御支援、御協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

終わりに、ITC-J カウンسل No.4 のますますの御発展と、会員の皆さまの御健勝、御活躍を祈念し、お祝いの言葉と致します。



カウンスル No. 4 30周年によせて

ITC-J 第36期会長 西村 みつ子

カウンスル No. 4 が30周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

昨年10月の30周年記念会合を思い出すと、今でも頬が緩んできます。お天気までも味方につけて、瀬戸内海を巡るクルーズ船上での楽しくも、格調高い素晴らしい会合でした。No. 4 の皆さまのパワーと団結力とおもてなしの心を肌で感じた心温まる一日でした。

No. 4 は岡山県から九州まで、東西にとても長い地域をカバーするカウンスルです。そのための運営上のご苦勞は、役員の方々にも会員の皆さまにも、大なり小なりおありのことと拝察致します。しかし30期では、ともに瀬戸内を囲む一つの地域とおおらかに捉え、未来に向けて共に進もうと呼び掛けて、手を取り合って力強く活動を進められました。その温かい思いとリーダーシップに心から敬意を表します。

ITC の歴史は幕を閉じましたが、ほぼ1年たった今、ITC-J という若い枝が伸びてきました。ITC 国際という大きな要が無くなった分、ITC-J のカウンスル、クラブはその絆を一層深めなければなりません。そしてそれぞれのカウンスルやクラブの個性を大切にし、尊重し合う中で、個々の会員は切磋琢磨し、自己の向上のために楽しく学ぶ…この「楽しく」ということを特に大切にしたいと思います。

楽しく学ぶためには工夫と準備と良い人間関係が必要です。担当する仕事やプログラムへの参加が辛いようでは、楽しく学ぶことはできません。役員や委員の仕事の負担をできるだけ小さくするように工夫し、楽しく達成感が得られるようなプログラムを準備する。年配会員を思いやり、新しい会員が参加しやすいように適切に指導する。いつでも和気藹々と居心地良い空気を保つ。

こんな当たり前と言えば当たり前のことを70年近く積み重ね、継続してきたのが日本の ITC であり、数えきれない先輩たちのおかげで今の ITC-J があります。私たちはコミュニケーションとリーダーシップだけでなく、多くのことを学んできました。切られた幹から伸び始めた若い枝を今後どのように育て伸ばしていくか。変化してきた環境にどのように順応していくべきか。容易な道ではありませんが、より良い方向を見定めて枝を伸ばしていかなければなりません。

この1年、新しい組織作りのために皆さまと共に邁進してまいりました。その中でコミュニケーションの大切さを改めて学びました。カウンスル No. 4 におかれましては、今後も瀬戸内を囲んでスケールの大きい、しかも細やかなコミュニケーションを通して、ますます発展されまよう、心よりお祈り致します。



30周年を祝して

ITC-J 第16期会長 三宮 晶子 (阪神)

カウンスル No. 4 の皆さま、設立30周年をお迎えになり、心よりお祝い申し上げます。

1988年、初代会長「Never Give Up」のテーマの下、九州、ひろしま、福山、岡山、安芸、大分の6クラブで中国路に初めてのカウンスルとして発足なさいました。以後、Sunny Side の瀬戸内海に沿い、九州にかけて次々とクラブが設立され、地理的に長く、遠く広がる広範囲のカウンスルとなりました。

クラブ間のコミュニケーションが距離的に難しい中、着実な歩みを続け、30年もの歴史を重ねてこられましたのは、皆さまにとって殊の外、お慶びのことでしょう。

2001年には第19回日本リージョン年次大会を広島で開催、2007年には第25回年次大会が福岡で開催され、ホストカウンスルとして見事に重責を果たされました。優れたリーダーシップの下、各クラブ、会員の皆さまのご努力、ご協力があってこそのご成功とお慶び申し上げます。どちらの大会にも参加させていただき、心に残る一頁となりました。

カウンスルは、どのような歴史を辿って現在の形になったのでしょうか？

1973年 カウンスル No. 1 が名古屋、阪神、神戸の3クラブで設立。

1981年 No. 1 が No. 1、No. 2、No. 3 の3つカウンスルに分割、当時、九州、鳥取クラブも No. 2 の所属でした。

1982年 日本リージョン設立、3カウンスル16クラブで構成。

1987年 カウンスル No. 2、No. 3 が更に、6つのカウンスルに分割、この分割によって誕生したのがカウンスル No. 4 でした。

1990年 カウンスル No. 1 が No. 8 に分割。

2001年 クラブの増設、分割で繁栄を続け、85クラブ、1881名を擁する世界一大きなリージョンとなり、神戸で世界大会が開催されました。

2017年 予期せぬ大津波の襲来で日本リージョンは組織の変革を余儀なくされました。

名称が変わっても、永年継承されてきたアーネスティン・ホワイトさんの創設の理念や教育機関としての独自のトレーニングの方法は変わらないと信じます。カウンスル No. 4 の益々のご繁栄をお祈り申し上げます。



左のイラストは No. 4 が誕生した頃、増設メンバーとして活躍していた阪神クラブの皆さんです。故野田絢子さんのお嬢様が描いてくださいました。三宮記



話し合いは知的な共同作業である。

カウンスル No. 4 第1期会長 桑原 美紀子 (ひろしま)

名称が ITC だった時代にスタートしたカウンスル No. 4 は、この度30周年を迎えました。改めて時の流れの速さに驚いております。

私が中国地区に ITC のクラブを増設するようにとの依頼を受けたのは、37年前でした。日本リージョンが設立されたことから増設委員会ができ、広瀬忠子委員長より依頼があったと記憶しております。増設委員会の方々や既存のクラブのご尽力で中国、九州地方に相次いでクラブが誕生しました。6クラブが活動を始めたところで、所属するクラブが増えたカウンスル No. 2 が分割され、No. 4 がスタートしました。

No. 4 の第1回会合に来席された次期リージョン会長が、私がお挨拶すると「どうして縁起の悪い“4”をつけたの？」と言われ、啞然としたのを今でもよく覚えています。未だにその理由はお伺いしておりません。しかし、No. 4 はその後確実に成長して今日に至り、10クラブが所属する大きなカウンスルとなりました。

日頃、ITC-J の活動をしていく中で、一つ寂しく思うことがあります。IT 化が進み、電話で話すことが少なくなっています。今後もますます進化してゆくと考えられますが、お互いの思考まで画一化してゆくかもしれないと、私は危惧しています。コミュニケーションを学ぶ会なのですから、知的な作業である話し合いの場もさまざまな局面で持つことができたらと願っております。新しい生きた言葉を中心にして、地域社会に貢献するグループに成長してゆくことが大切だと思います。

他カウンスルからの応援メッセージ

カウンスル No.4 が発足してから、講演、教育、ワークショップの講師あるいはゲストとして、他カウンスルから多くの会員の方々が訪れてくださいました。その度に ITC-J の仲間としての絆が深まるのを感じたものです。

30周年を迎えるにあたり、カウンスル No.4 へお越しいただいた折の印象、アドバイスなどをお伺いしてみました。



一歩一歩と一緒に

カウンスル No.5 会長 松本 敬

カウンスル No.4 の皆さま、30周年おめでとうございます！
カウンスル No.5 を代表して心よりお祝い申し上げます。

1988年8月1日、カウンスル No.4 は No.5、No.6、No.7 と共に
4つ子姉妹として誕生されました。その年はバブル真最中でした。

NTT 株など財的ブームが盛んになり、今は ITC-J において必需品となったパソコンや携帯電話が一般に少し出始めたのもこの年です。実質昭和という時代の最後の年でした。平成時代をほぼ丸々お互い切磋琢磨しながら、幅広い年齢層が仲良く学び、活動をしてこられたことは、本当に誇るべき事であり、これぞこの組織の素晴らしさ！と実感致します。

No.4 は瀬戸内を取り囲んで10クラブがガッチリ繋がり、それぞれ個性豊かに活動なさっている様は素晴らしいことであり、ご立派なカウンスルと常々感じております。2月1日付でバイリンガル西条クラブが No.4 の仲間入りをされたとのニュースに、クラブ発足に携わりオフィサーを務めさせていただいた者として、この上ない喜びでございます。創設より多くの会員のご尽力が現在のカウンスル No.4 の礎となり、未来に向けての希望と新しい息吹を抱きつつ、新生 ITC-J の中心となって、益々ご活躍されることを期待しております。

これからも姉妹カウンスルとして手を携えて支え合い、励まし合って、新しい道を一歩一歩と一緒に歩んで参りましょう！



素敵 No. 4 の皆さま

カウンスル No. 3 松山喜代子 (西宮)

カウンスル No. 4 は、今期30周年を迎えられました。おめでとうございます。

当時、九州・ひろしま・福山・岡山・安芸・大分クラブがチャーターされました。今年2月からはバイリンガル西条クラブも仲間入りされ、所属クラブは10、会員数も No. 1 に次いで2番目に多いカウンスルとなりました。新入会員も最も多いカウンスルです。国際解散というハプニングがありましたが、国際への感謝を忘れず、これまでの学びを基に、全クラブが前進しておられる様子は本当に立派だと思います。日本リージョン第二副会長の時に、何度か伺い、すてきな方々とお出会いしました。大人数のクラブが、「次世代への継承」いうことで、将来を見据えた素晴らしい企画をされたり、少人数のクラブがオープン例会を繰り返し目標の30名まで努力をされたり、毎年小・中学生スピーチコンテストを開催されたり、全クラブが「未来に向けて共に進もう」というテーマの下、活動しておられる様子は、目を見張るものです。新組織 ITC-J において、また社会において No. 4 の前向きで有能な皆さまが、益々ご活躍くださることを、心より願っております。



強く、しなやかに

カウンスル No. 6 高木 清子 (京都)

山陽新幹線に乗るとき、いつも何故か心が浮き立ちます。曇りであっても、晴れた空と明るい陽光が私を迎えてくれるような期待感があるのです。それは私を迎えてくださる人々が晴れ晴れとした青空であり、太陽だと思えるからです。瀬戸内という山あり海ありの幸多き土地柄が産んだ特質でしょうか。というわけで、No. 4 が大好きです。

No. 4 のメンバーは有能だけでなく、温かみのある広い心を持っている人が多いと感じます。正面から物事に当たっていく真面目さと、自分をひけらかさない謙虚さを持ち合わせていらっしゃると思うのは私だけではありません。

30年という長い年月の間にはさまざまな出来事があったことでしょう。戸惑いや悩みを抱えながらもそれらを乗り越えて、今日という日を迎えられたことに、心からの敬意と賛辞を捧げます。ITC は79年の国際的な教育機関としての歴史を閉じました。日本における ITC-J としての再出発に際し、来期は No. 4 から会長が誕生します。これを機に大胆に局面を切り拓いていく勇気を持ち、積極的に行動してくださることを願っています。それには強さとしなやかさが求められます。

30周年を心から祝すると共に、今後の更なる発展と活躍を期待しています。



プログラムに魅せられて

カウンスル No.7 清水 典子（米子マンデー）

この度は貴カウンスルの30周年、誠におめでとうございます。

ドラの音を合図に開会した「銀河」での30周年記念会合は、まさに新生 ITC-J カウンスル No. 4 の船出に相応しいものでした。紺碧の空と煌めく海。波一つ無く、前途洋洋たる No. 4 の未来が感じられました。

会長テーマの「未来に向けて共に進もう～瀬戸内を囲んで～」にピッタリのシチュエーションに参加させていただいた私たちも、大変革の後の洋洋たる未来に向けて一緒にさせていただけるような、晴れ晴れとした気持ちになりました。また、会合後に銀河前での大きな集合写真もお送りいただき、心に残る記念の1ページとなりました。

以前から貴カウンスルへは、周年記念やスピーチコンテストなど幾度か訪問させていただきました。明るく和やかな中にも活発な意見が飛び交い、緊張感漂うビジネスも拝見させていただいたことがあります。地理的に近いこともさることながら、とても魅力的なプログラムにも魅せられています。そんなすてきな貴カウンスルへは機会がある限り訪問させていただきたいと願っています。

皆さまの益々のご活躍とご健勝を祈念申し上げます。



30周年おめでとうございます！

カウンスル No.8 山口久美子（菰崎）

私がカウンスル No. 4 の会合に初めてお伺いしたのは、2015年の3月会合でした。6月会合で「すっきりタイム」のワークショップを担当させていただくことになっていたのも、その打ち合わせを兼ねて出席させていただきました。会場に入るなり、真っ先に目に飛び込んできたのは、各クラブの名前が記された存在感のある大きなフラッグの数々でした。

色とりどりのフラッグを初めて目にした時、あのフラッグを作られた当時の先輩方のITCに寄せる熱い思いと期待が一針一針にしっかりと籠められているようで、とても感動しました。フラッグを通して先輩たちが今に至る会員たちの学びをずっと温かく見守ってくれているようで No. 4 の皆さま方は幸せだなあと思いました。「不易流行」という言葉があります。今、ITC-J は、新しい改革に向けて出発しました。旧態にとらわれずに改革していくことは素晴らしいことです。しかしながら、あのフラッグに籠めた先輩たちの夢と希望や矜持を忘れてはならないと思いました。あのフラッグは、No. 4 のかけがえのない宝物ですね。どうぞこれからも大切になさってください。

ITC 宣誓

我々国際トレーニング イン コミュニケーション のメンバーは、世界中の相互理解促進のために、
コミュニケーション技術と指導力の向上に努めることをここに誓います。

We, as members of International Training in Communication, hereby pledge to improve our communication
and Leadership skills, in order to achieve greater understanding throughout the world

カウンスル No.4 第 30 期 第 1 回会合プログラム

会長テーマ 「未来に向けて共に進もう」 ～瀬戸内を囲んで～
会合テーマ 「繋がろう！」

日時：2017 年 10 月 27 日（金）

場所：瀬戸内海汽船 クルーズ船「銀河」

インスピレーション

1987 年に生まれた「カウンスル No.4」は、30 周年を迎えました。今、新生 ITC 日本リージョンの歩みが
スタートするとき、カウンスル No.4 に希望と新しい息吹が生まれようとしている。私達の心は一つに繋がる。
さあ新しい船に乗ってしっかりとオールを握り大海原へと漕ぎ出していこう。 — 近本節子 —

開会	会長	成定正子	11:00
ビジネス	議長：成定正子	書記：島村 忍	
ITC インフォメーション	公式訪問者 ITC 会長	西村みつ子様	

＊ カウンスル No.4 30 周年記念会合祝宴 ＊

開会	会長	成定正子	12:00
ITC 宣誓	福岡クラブ会長	富松香余子	
インスピレーション	瀬戸内クラブ会長	近本節子	
会長挨拶・来賓紹介	会長	成定正子	
ゲスト紹介	第二副会長	時光育子	
祝辞	ITC 会長	西村みつ子様	
乾杯	元リージョン会長	高木清子様	

♪～音楽のひととき～♪ テノール歌手 下岡 寛様 ピアノ 平井剛治様

プログラム	プログラムリーダー	吉岡裕子	14:00
-------	-----------	------	-------

講演「瀬戸内の歴史を識る」

講師 広島経済大学経済学部 濱田敏彦教授

出席者報告	登録委員長	青木和恵
ITC 年次大会インフォメーション	(コ・コーディネーター)	岡島詠子様
次回会合案内	第一副会長	前田利子
クロージングソート	岡山あくらクラブ会長	福井佳子

閉会	会長	成定正子	14:45
----	----	------	-------

コーディネーター：石崎慶子 コ・コーディネーター：谷本美寿子 青木和恵

ITC-J カウンシル No. 4 30周年記念会合



日 時：2017年10月27日（金）
 会 場：瀬戸内海汽船
 クルーズ船「銀河」
 出席者：No. 4 会員 100名
 来賓・ゲスト 20名

朝目覚めたとき、窓から見た晴天、ホッとした気持ちを忘れることはないでしょう。2017年10月27日（金）に開催されたカウンシル No. 4 の30周年記念会合の会場は、瀬戸内海に浮かぶ美しい島々の間を抜けながら航行するクルーズ船「銀河」。そして JR 広島駅から「銀河」が待つ広島港までの交通手段として、かつては「チンチン電車」と呼ばれ、広島市民の足として愛され続けている路面電車をチャーターするという初めての試みです。コーディネート委員会の皆さまが十分な準備をしてくださり、心配は天候のみという状況で当日を迎えることができました。



雲一つ無い青空の下、「銀河」は桑原美紀子カウンシル No. 4 チャーター会長が打つ銅鑼を合図にゆっくりと出航しました。「30周年なので1打に10年の想いを込め、3回銅鑼を打ちました」と感慨深げに語る桑原さん。エスコートしてくださったのは「銀河」の船長さんです。



松井一實広島市長から贈られた「祝辞」が代読されたあと、西村みつ子 ITC-J 第36期会長からお祝いの言葉を頂きました。ITC 国際の解散という不測の事態に遭遇し、「これからどうなるのだろう」と、不安の中にいた私たち会員ですが、西村会長の「新しく作り上げていく組織の下で、カウンシル、クラブはその絆を深め、切磋琢磨しながら、楽しく学んでいきましょう」という冷静で力強い言葉に、ずいぶん元気づけられました。さらに西村会長は「No. 4 の皆さまは、名実共にしっかり学んでおられます」と、うれしい評価もいただきました。



講演や教育の講師としてカウンスル会合やクラブ例会に何度も来ていただいている高木清子前リージョン会長のご発声で、ランチタイムが始まりました。青く澄んだ海を眺めながらの会食は、開放感があり、何とも爽快で、どのテーブルでも会話が弾んでいました。

エンターテイメントの部で愉しませてくださったのは、テノール歌手の下岡寛様。イタリア仕込みの素晴らしいカンツォーネを聴いているうちに、宮島がすぐ目の前に見えるところまで船は進んで来ていました。深い緑の山をバックに青い海に浮かぶ赤い大鳥居。美しい景色に感激の声が上がり、しばし撮影タイムとなりました。

帰路のプログラムは、濱田敏彦広島経済大学経済学部教授による講演「瀬戸内の歴史を識る」です。地元の私たちもよく知らない瀬戸内の歴史を「塩と潮の流れ」にからめながらのお話は、時間が経つのも忘れるくらい興味深かったですね。歴史的に見ても、九州から岡山に至るカウンスル No. 4 は、瀬戸内海を囲むように繋がったカウンスルであることを、改めて実感しました。講演後「もっとお聴きしたかった」という声があちらこちらから聞こえてきましたので、濱田教授が改めて書き下ろしていただいた資料を本誌に収録していますので、ご覧ください。

クロージングソートは福井佳子岡山あくらクラブ会長が、記念会合にふさわしい厳粛な言葉で締めくくりました。

大勢のお客さまをお迎えして、澄み切った青い空の下で、波静かな海をゆったり航海した船上での30周年記念会合のことは、私たち No. 4 の会員の記憶にいつまでも残ることでしょう。心から感謝申し上げます。

報告：第30期第一副会長 前田 利子



カウンスルNo. 4 第30期第1回会合（カウンスルNo. 4 30周年記念会合）2017.10.27

第30期第1回会合プログラム・講演

瀬戸内海の歴史を識る ～海・島が織りなす瀬戸内海の歴史と風土～

講師 広島経済大学教授 瀨田 敏彦

はじめに

瀬戸内海の範囲についてはいくつかの見方がありますが、「瀬戸内海の環境保全特別措置法」（昭和48年）では、瀬戸内海に面する関係諸府県について「第二条 この法律において『瀬戸内海』とは、次に掲げる直線及び陸岸によって囲まれた海面並びにこれに隣接する海面であつて政令で定めるものをいう。一 和歌山県紀伊日の御岬燈台から徳島県伊島及び前島を経て蒲生田岬に至る直線、二 愛媛県佐田岬から大分県関崎燈台に至る直線、三 山口県火ノ山下燈台から福岡県門司崎燈台に至る直線（この法律において『関係府県』とは、大阪府、兵庫県、和歌山県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、福岡県及び大分県並びに瀬戸内海の環境の保全に関係があるその他の府県で、政令で定めるものをいう）」と規定しています。



また、瀬戸内海に点在する島々については、通称「瀬戸内海三千余島」といわれますが、第6管区海上保安部の「瀬戸内海の海上保安の現況」（1963年4月版）では、同本部管内の島と岩を合わせると3688あると記されています。さらに、1986年に海上保安庁が海図をもとに調査した外周0.1キロメートル以上の「島」は、727を数え、広島県は142で存在する島の数トップとなっています。特に、今回のクルーズの舞台となった広島県と海を挟んで、それと向かい合う愛媛県（安芸と伊予）とを結ぶいわゆる芸予諸島には、非常に多くの島が存在することに地図を見ればすぐに気が付かれると思います。多くの島が存在することは、瀬戸内海地域にさまざまな歴史を刻印してきました。

1. 瀬戸内海の「塩」と「潮」、そして「海賊衆」

（1）特産品の「塩」（製塩）

温暖小雨の気候に恵まれた瀬戸内海の産物で、古くから著名なものに「塩」があります。「朝風に玉藻刈りつつ夕風に藻塩焼きつつ…」と『万葉集』にも詠まれた製塩は、時代とともに生産性のより高い技術が開発されていき、中世におけるいわゆる揚浜式塩田を経て、近世には入浜式塩田へと発達しました。入り浜式塩田は、瀬戸内海の特徴でもある遠浅海岸を利用し、堤防で海から隔てた塩田に満潮時の海水を引き込み浸透させ、太陽熱で水分を蒸発させた「かん砂」をかき集めて海水をかけて濃厚な塩水（鹹水）とした上で、釜で煮つめて製塩を行うものです。たとえば播磨国赤穂を筆頭に、安芸国竹原、備後国松永など、瀬戸内海は全国の塩生産の大半を占めるようになります。しかし、塩田の開発によって島嶼部や周辺村々では燃料木としての広葉樹の伐採が進み、瀬戸内海の島々・沿岸部がはげ山や繁殖力旺盛なアカマツの山へと変化していく大きな要因ともなったといわれています。

(2) 激しい「潮流」と「海賊衆」

瀬戸内海は、地形の複雑さと干満の差の激しさが生み出す「潮流」の速さが特徴です。そのような潮流の変化が激しい場所では、巧みな操船技術を持つ者が「海の支配者」となり、いわゆる「海賊」が活躍する背景ともなっていくのです。

中世になって瀬戸内海、とくに芸予諸島で「活躍」した海賊は、能島村上、来島村上、因島村上のいわゆる「三島村上氏」です。たとえば、城山三郎氏『秀吉と武吉』で描かれた戦国期の村上武吉や、その武吉の娘を主人公に描いて話題となった和田竜氏の『村上海賊の娘』などに代表される能島村上氏は、芸予諸島の大島・伯方島間の船折の瀬戸の真ん中にある能島城に居館・家臣屋敷・職人屋敷を、隣接する鶴島には造船所と船奉行屋敷・船大工屋敷などを持ち、一般的にイメージされる「無秩序な海賊」とは異なる、「組織的な海賊衆」の姿を垣間見せています。実は「平時」の海賊衆は、瀬戸内海の各地に「海の関所」を設置して往来する船舶から関銭を徴収したり、その船舶に上乗りして複雑な水路の多い瀬戸内海の水先案内や「警固」などに当たって手数料を取ったりしていました。芸予諸島では、三島村上が瀬戸内海航路を縦横に遮る連繫を取ることで活動を行い、西瀬戸内海の海上交通・海上運輸における「独自の秩序」を徹底させていたと考えられています。

2. 中世における瀬戸内海

(1) 巖島と平清盛

広島県を代表する観光スポットに、日本三景の一つで世界遺産としても知られる「巖島（宮島）」（現、広島県廿日市市宮島町）があります。広島湾南西部にあり、島全体が瀬戸内海国立公園に含まれる面積約30km²のこの島は、島の全域が神域として保護されてきました。そのため、「神仏が宿る」弥山は貴重な原始林に覆われ、それらは天然記念物となっており、鎮座する巖島神社は、市杵島姫命（いちきしまひめのみこと）を主神とし、田心姫命（たごりひめのみこと）・湍津姫命（たぎつひめのみこと）を合祀し、海中に立つ社殿をはじめ、大鳥居・朱塗の殿堂・能舞台など国宝・史跡に富んでおり、かつての安芸国一の宮でもありました。また、日宋貿易に注目した平清盛は、大輪田泊をはじめ瀬戸内海諸港の整備に力を注ぐ中で、交通の要衝でもあった巖島を重視しました。そして、巖島神社に厚い信仰を寄せ、一門を挙げて『平家納経』を奉納し、海上安全を願うなどしました。その後も、巖島は瀬戸内有数の海上交通・海上運輸の要衝として栄え、さかんな交易活動が行われて港町・門前町が形成されていきます。

(2) 巖島と平清盛

さらに、戦国時代の1555（弘治元）年には、毛利元就が安芸国巖島に進駐した陶晴賢を破る「巖島合戦」が起きました。暴風雨の夜に軍を進めて奇襲攻撃をかけ、4000人余の毛利軍が2万人の陶軍を破ったとされるこの戦いは有名ですが、背景には瀬戸内海交易の重要拠点であった巖島を支配下に治める戦いという一面があったのです。この巖島合戦を制した毛利元就には、以後中国地方の覇権への道が大きく開かれることとなります。

3. 近世における瀬戸内海

(1) 近世の瀬戸内の海上交通・運輸

17世紀後半の寛文期の頃、東北・北陸地方の米穀などを江戸に運送するため、幕命を受けた河村瑞賢によって東廻りと西廻りの航路が整備されました。すでに中国・四国・九州地方と大坂をつなぐ水運の「場」として位置づけられていた瀬戸内海は、西廻り航路の整備によって、「天下の

台所」として全国市場の中核に位置する大坂と、北海道・東北・北陸・山陰地方とを結ぶ物資輸送の大動脈となったのです。

一方、近世には造船技術にも変化が見られ、瀬戸内海地域ではいち早く木綿帆が普及し、帆走専用の弁財（才）船が発達によってある程度の横風や逆風の中でも、帆走が可能になりました。一般に「千石船」と呼ばれる大型の弁財船は大坂・瀬戸内海で発達した船で、漕ぎ手の労働力の省力化と船の高速化を可能にしました。また、瀬戸内海各地では造船業も発達し、例えば、古くから造船業で栄えていた広島藩領の倉橋島（現、広島県呉市倉橋町）は、活況を呈した19世紀頃には、「終日丁々憂々の音絶え」ないほど盛んに造船が行われ、全国各地から船の注文が殺到したといわれます。この地域の造船業の伝統は、後の戦艦大和の建造にまでつながっていきました。

航路についても、陸地に沿いながら航行する従来の「地乗り」に対して、島伝いに沖合を航行する「沖乗り」が加えられ、西廻り航路の発展とともに活発化しました。そして、瀬戸内海の沿岸部の港町がさらに発展を遂げるとともに（広島県では竹原、尾道、福山の鞆の浦など）、「風待ち」や「潮待ち」の船が入港することで発達した島嶼部の「海駅」が数多く生まれ、活発な交易が行われました。

例えば、安芸国の御手洗（現、呉市豊町御手洗）は、四方からの風をさえぎる良港をもち、17世紀後半頃から船宿や商家、倉庫を中心に町並みが広がり、船の発着場の雁木や船番所なども設置され、港町としての整備が図られました。当初は、薪・水・燃料供給が中心でしたが、18世紀以降は西廻海運の盛行とともに北国米を中心とする廻船問の仲介・中継的問屋商業が展開し、町の繁栄とともに祭礼・市立て、若胡子屋を中心に沖乗り相手の遊女屋（茶屋）などが設けられました。

（2）近世の瀬戸内と朝鮮通信使

江戸時代のいわゆる「鎖国」下においても、長崎・対馬・薩摩・松前の四カ所を中心に海外への「窓口」が開かれていたことは知られていますが、瀬戸内海もまた外交上で重要な役割を果たしていました。江戸幕府の将軍が代替わりするごとに訪日した朝鮮通信使もその一つで、江戸時代を通じて12回も慶賀のためにやって来ています。例えば、1719（享保四）年に徳川吉宗の将軍就任を祝賀するため来日した第9回の通信使は（製述官・申維翰の著した『海遊録』）、正使・副使・従事官の三使臣以下475名一行に加えて、先導役の対馬藩主および藩士・従者など約800名とともに瀬戸内海に入り、赤間関（現、山口県下関市）や安芸国下蒲刈島（現、広島県呉市下蒲刈町）などで、各藩の接待を受けたり、儒学者との交流を深めたとあります。特に、各藩主は国力誇示のため最大限の接待を行ったので、通信使の必要物品費用や藩の接待経費は莫大なものとなりました。ちなみに、ある通信使は各地の接待について問われた際に「安芸蒲刈御馳走一番」と絶賛したとされ、またある通信使は備後国鞆の浦（現、広島県福山市鞆）の福禅寺対潮楼から眺めた瀬戸内海の風景について、「日東第一形勝」（日本一の景勝）と賞賛したともいわれます。

通信使の一行には、日本での文化交流に備えて製述官・写述官・医員・画員などエキスパートが選出されており、彼らが瀬戸内海各地で日本の文化人と交流を行ったことは、さまざまな相互の文化を比較し自国の文化を発展させること、あるいは自国の文化の独自性を認識することなどの上で、大きな役割を果たしたと考えられます。

（3）近世の瀬戸内海と文化人

近世において瀬戸内海の港町が飛躍的に経済発展を遂げたことで、港町・在郷町には経済的・時間的な余裕が生み出されました。また、西廻り航路をはじめとする海上交通の発展によって上方文化（京都・大坂）に接触したり、情報の往来がより容易になったりすることで、瀬戸内海各

地に町人・民衆文化の隆盛がもたらされました。

大学頭林述斎をして「当代一の詩人」といわしめた菅茶山は、「在野」・「地方」を貫いた文化人として備後国神辺（現、福山市神辺）で黄葉夕陽村社（のち、郷学の廉塾）を営みました。彼のもとには全国各地から多く遊学者、著名な文人墨客が訪れ、その著『黄葉夕陽村舎詩』は高く評価されました。また、港町竹原（現、広島県竹原市）で紺屋業や塩田経営に関わっていた豪商・頼家は優れた儒学者を輩出しましたが、その中に頼山陽がいます。山陽は、叔父の頼杏坪に学んだ後、江戸に遊学して尾藤二洲に師事し、帰国後には脱藩を企て上洛しましたが連れ戻され、廢嫡のうえ自宅謹慎・幽閉されるなどしました。しかし、彼の著した『日本外史』は、幕末の志士たちの思想に大きな影響を与えることとなりました。ちなみに、山陽は、晩年の京都における居所の書齋を「山紫水明（さんしすいめい）処」と名付けたが、この「山紫水明」（山影は青紫に沈み、海面は乳白色に光り、刻一刻暮色を深める風景）という言葉は、「郷愁」と「癒し」を感じさせる、瀬戸内海の美しい景観を伝える最も適切な表現ではないでしょうか。

おわりに

船上からご覧いただければお分かりのように、瀬戸内海、とりわけ安芸国（現、広島県）の沿岸部ならびに島嶼部は、海と山が近接しており平野部が少ない地形となっています。そのため、江戸時代から安芸国は耕地面積に対して農業人口が多い（つまり一人当たりの耕地面積が極めて少ない）地域でした。一方、この地域は、「安芸門徒」と呼ばれた真宗（浄土真宗）地帯であり、その教義は殺生を強く禁じていたため、間引・墮胎が少なく人口増加率が高かったことが指摘されています。それらの諸要因が相まって、江戸時代の安芸国では、出稼ぎの風土が強く、遠方・他所に働きに出るといった経験やそれを厭わない風土が根付いていたといわれます。海上交通・運輸の面では地元や他港船籍の船で水主としての船方稼ぎ、中四国、大和吉野地方をはじめとする山林地帯へ山稼ぎ、その他には石工などとして各地へ非常に多くの人びとが出稼ぎを行っていました。それら出稼ぎを行う人々は、「安芸者」と呼称され、専門的な技能を持ちつつ、粗衣粗食に耐えて誠実に働くこと評されたようです。その「流れ」は、明治時代以降の「ハワイ移民」につながり、ハワイへ渡った広島移民は、浄土真宗の教義にある「勤勉・質素儉約」などの精神性に基づく生活態度をもち、ハワイ農園の雇用主の間で好評であったことなども指摘されています。

本日は、瀬戸内海という場所が生み出した歴史と風土について、その一端をお話しさせていただきました。

※以上は、2017年10月27日にクルーズ船「銀河」の船上で開催された、ITC-J カウンシル No. 4 の30周年記念会合における講演を紙幅の都合で抜粋・要約したものです。

【参考文献】

●『広島県史』原始・古代、中世、近世1、近世2、近代1 ●山内譲『瀬戸内の海賊』（講談社） ●後藤陽一編『瀬戸内御手洗港の歴史』（御手洗史編纂委員会） ●白幡洋三郎編著・合田健監修『瀬戸内海の文化と環境』（瀬戸内海環境保全協会） ●『瀬戸内海事典』（南々社）…他



ITC-J 宣誓

我々 インタラクティブ トレーニング イン コミュニケーション ジャパン のメンバーは、
世界中の相互理解促進のために、コミュニケーション技術と指導力の向上に努めることをここに誓います。
We, as members of Interactive Training in Communication -Japan, hereby pledge to improve our
communication and leadership skills, in order to achieve greater understanding throughout the world

カウンスルNo.4 第30期 第2回会合プログラム

会長テーマ 「未来に向けて共に進もう」 ～瀬戸内を囲んで～
会合テーマ 「伝えよう！」

日時：2018年4月3日（火）11：00-16：00

場所：ホテルグランヴィア岡山

インスピレーション

伝える貴女のドラマのさざ波が成功の証！ 勇気となって迫りくる

ひとり回り大きな姿に我も又負けじと歩みだす。 坂本公子

開 会	会長	成定正子	11：00
ITC-J 宣誓	九州クラブ会長	田中幸子	
インスピレーション	ひがし広島クラブ会長	坂本公子	
会長挨拶・来賓紹介	会長	成定正子	
ゲスト紹介	第二副会長	時光育子	
ビジネス	議長	成定正子	
審議	議長：成定正子 書記：島村忍		
.....昼食・資料物品渡し.....			
プログラム	プログラムリーダー	和田晴子（岡山）	12：30
<第1部> スピーチコンテスト			
	プログラムリーダー	吉田直美（岡山）	
<第2部> パネルディスカッション			
『ITC-Jを考える』	モデレーター	村山紀子（岡山）	
タイマー紹介	出原祐枝	大元絵里子（福山）	
出席者報告	登録委員長	時光育子（岡山）	
コーディネーター紹介		寺岡倫子（岡山）	
次回会合案内	第一副会長	前田利子	
クロージングソート	安芸クラブ会長	萱島頼子	
閉 会	会長	成定正子	16：00

コーディネーター 寺岡倫子（岡山） コ・コーディネーター 島村忍（岡山）

第30期第2回会合・パネルディスカッション

ITC-J を考える ～次世代へ向けて～



司 会 村山 紀子 (岡 山)
 パネリスト 永嶋 順子 (九 州)、皆川 迪子 (高木彬子の代理出席 ひろしま)
 近本 節子 (瀬戸内)、富松香余子 (福 岡)、谷本美寿子 (ひろしま)
 伊庭 あや (岡 山)

司 会 ただ今から、パネルディスカッション「ITC-Jを考える」を始めさせていただきます。今期カウンセル No.4 は30周年を迎えました。また ITC 国際が解散し、日本は ITC-J という新名称になり活動をスタートしました。これを機に新生 ITC-J の今後の活動、更に ITC-J の未来のために意見交換をしていただきます。入会の動機・魅力・改革・ビジョンなどについて、ご意見をお聴きしたいと思います。

まず ITC-J に入会した動機を、近本さんからお話ししていただけますか。

近 本 私が ITC と出会ったのは27年前です。福山市に ITC のクラブをもう一つ増設したいと、会員を募集されていました。模擬例会が何度か開催されていたようで、私が参加したのはもう最終の頃でした。指導に来られた ITC 会員の素晴らしいスピーチ、入会予定者の上手なスピーチを聞いて、「私の来るところでははかった」と思いつつも、好奇心いっぱい、それ以降も数回参加しました。最後の模擬例会だったと思いますが、渡された台本を見ながら、プログラムリーダーのお役を務めました。指導者の先輩会員が、「ITC 大好き人間です」と教育担当者を紹介するようご指導してくださいました。私はこんな言葉が ITC を大好きにするのではないかと、強く印象に残っています。私も何かに挑戦したいと思い、入会を決めました。めでたく瀬戸内クラブがチャーターされ、式典にご出席していただいたリージョン役員の方々の洗練された美しい言葉でのご挨拶に感銘を受けました。一步でも近づけるよう頑張ろうと思いました。

司 会 模擬例会でプログラムリーダーを務めたときのご経験と先輩会員の言葉に心を動かされたようですね。富松さんはいかがですか？

富 松 友人から誘われ、福岡クラブへゲストとして訪れた会場には季節の花が飾られ、お洒落

な会員の方々が優しい笑顔で迎え入れてくださいました。例会が始まり、分刻みに作成されたタイムテーブルに沿って、無駄なくビジネスが進行することに驚きました。また、聞き慣れない ITC 用語がとても新鮮に感じられたことを今でも覚えています。その当時、私は学校の PTA の役員を務めていたため、人前で挨拶をする機会が増えていました。例会で会員の方々のスピーチを聴き、「私ももっと上手に話したい」と、思ったことが入会の理由でした。ITC-J には魅力的な会員の方々が大勢いらっしゃいます。カウンスル会合でお目にかかり、刺激を受けることも楽しみの一つです。その先輩方を目標にし、また、ご指導を受け、時には助けていただき、今日まで在籍しています。

司 会 無駄のない時間の使い方にはだれもが驚きと感動を覚えると思います。話し上手になりたいという願いはかなったのではないのでしょうか。魅力的な人に出会ったことが、入会のきっかけにもなったようですね。次に伊庭さんはいかがですか？伊庭さんは皆さまご存知の元阪神クラブ会員の伊庭文子さんのお孫さんのお嫁さんです。

伊 庭 12年前、私は結婚式を挙げました。披露宴のトリは、夫の祖母による朗読。当時84歳だった祖母が、華やかに、そして厳かに、結婚式に彩りを添えてくれました。式のあと、いろいろな方々から感想を頂きました。「あやちゃん、結婚式よかったわあ。ところであのトリのご挨拶をなさったおばあちゃんは何者？」と、皆の興味を惹いたのは、祖母。吉野弘さんの「祝婚歌」という詩を朗読してくれたのですが、そこにいた誰もが惹き込まれてしまう、祖母の声、テンポ、響き、詩の内容、すべてが相まって、皆の心を揺さぶったのでした。私の結婚式ですから、私が主演女優賞だったとして、祖母は見事な助演女優賞。皆さんの心に深く残る登場人物となったのです。夫の親族に祖母について尋ねると、「ITC でお勉強しているからね」と返ってきて、私はそこで初めて、ITC という言葉を耳にしました。親族からは「リージョン大会で」とか「あ～、あの人は ITC のお友達の〇〇さん」などというワードが出てくるのですが、入会するおおよそ2年前まで、私の中では ITC の実態は謎のままでした。祖母の ITC のお友達は、皆さん才色兼備。祖母の家に飾ってあるお友達との写真は皆さんキラキラしていて、ますます謎は深まるばかりでした。そんな ITC に入会して、今思うことは、身近に ITC の会員がいても、当時の私には「ITC の実態はつかみにくかった」ということです。「84歳になっても、助演女優賞がもらえるようなおばあちゃんになりたい」というのが、入会に至る私の明確な目標でした。

司 会 ITC-J は魅力的な人間力を磨く組織であると思いますが、なかなか説明が難しく、すぐには分かりにくいですね。永嶋さん、ITC-J をどうとらえていらっしゃいますか。

永 嶋 そうですね。迷わず言えるのは、私の人生の後半は ITC 色に染まっていました。還暦に近い年に入会して以来30年近く、学ぶこと、納得することが多く、何よりどんな話題でもバリアを感じることなく興味を共有することのできるお友達の中にいる。それは何にもまして幸せでした。もっとお仲間を増やしたいと願い続けておりますが、ただ ITC-J にお誘いする時、理念を記載したリーフレットを渡しますが、これで受け取った方に ITC-J を即、理解しては貰えません。「ITC-J ってなに？」「それはこうですよ」といっぺんに印象付けられる、心が躍るインパクトが望ましいですね。これまで「ITC って言葉が固くて分かりにくい。決めごとばかりで面倒くさい。もう少し型にはめずに伸び伸びと活動したい」と言われた経験はありませんか。立派な文化遺産も、守ろうとするなら常に手を入れ、新鮮な風を通さなければただの廢墟になってしまいます。

司 会 ITC-J を中身の充実した組織にするために新鮮な風を通すには、永嶋さん、どのようにすればよいでしょうか。

永 嶋 今、大変革の ITC は新生「ITC-J」として役員会、組織検討委員会を先頭に歩き出しました。少しずつの変化も見えて来ました。自立した ITC-J です。日本に適した相応しいきちんとした会則のもとに、議事会議や教育プログラムに於ける重要と思われる柱を立て、あとは各クラブでそれぞれ話し合い、運営して行けばよいと思います。試行錯誤で工夫して進化させて行く、AクラブとBクラブがコピーしたように同じでなくてもよいではありませんか。クラブの改革や、独創の部分を全クラブに発信するのもいいですね。それができるのは、クラブの次世代を担う若い会員たちなのです。時代に合わせた ITC-J とは「合理性に富み、軽やかな組織の形」かな、と思います。西村会長は、楽しい ITC-J であれ、と示唆しておられます。

先日クラブのスピーチコンテストでは、委員長の意思でもあり、10名の出席者のうち、スピーカー6名、審査員は現クラブ会員と元大分の個人会員で外部審査員無し、元大分クラブの皆さまには多大のご協力を戴き、終了後の反省会にも自由参加で全員が感想やアドバイスを述べ、全く伸び伸びとリラックスしたコンテストになりました。後でスピーカーから「こんなに楽しいコンテストは初めて」と口々に喜んで貰いました。楽しめるとは何か。十分に活動する喜び、お互いを認め合い友愛に溢れたひと時ではないかと思ったことでした。

司 会 伸び伸びとリラックスしたコンテストとは興味深いですね。重要と思われる柱を立てクラブごとに自由な発案をするというご意見ですね。

高木さん、今後、どう考えるべきか、お考えをお話いただけますか。

皆 川 (代読) 私たちの学んでいるこの組織は、この度新しいスタートに余儀なく立たされました。時代の変化に対応し、再度原点に帰るチャンスを与えていただいたものと思い、今後の目指すべき方向を考えてみました。創設者の志「個人のビジョンをより高いものに引き上げ、行動基準のレベルを高め、限界を超えて人格を築き上げること」を忘れては、将来はないと思います。本来バラバラな考えをもった人間が集まり、一つの目標に向かって進もうとする時、おのずとスタート時点のもの考え方、人間の思考と行動が組織の価値ではなかったでしょうか。

自分で考え、体験して学ぶトレーニングプログラムは、他の組織にはない独自性であり、30人というチームの基礎単位は必要なクラブ会員数であると考えます。率直に言わせていただくなれば、会員不足は社会で起こっている「学級閉鎖」と同じ現象に感じられます。会員歴の長い人自らの思い込みから「こうするしかない」という、とても狭く力が出ない行動の選択が、革新を阻害している面も見受けられます。何故、この様な問題が起こるのでしょうか。やってみなければ結果がでない筈なのに、何故勇気ある行動が起こせないのでしょうか。過去を引きずらず、変えるべきは変える、今正にその時だと思います。新しい試みをお聴きいただければありがたいです。

司 会 創設者の志「個人のビジョンをより高いものに引き上げ、行動基準のレベルを高め、限界を超えて人格を築き上げること」を忘れては、将来はないとご指摘がありました。高木さん、安芸クラブが30周年記念をお迎えになられました。未来に向けてどのようにお考えですか？

皆 川 安芸クラブの周年記念が、新しい試みとして「人はチームで磨かれる」をテーマに、年

年齢、性別、バックグラウンドや価値観の異なる多様性のある30人の会員が一つのチームとして、互いに磨き合い成長するという新生 ITC-J のモデルとなるようなクラブを目指します。

司 会 個はチームで成長することを踏まえた挑戦をなさるのですね。

谷本さんは、創始者のアーネスティン女史の言葉を読んでいかがですか？

谷 本 創始者のメッセージは何回か読みました。アーネスティン・ホワイト女史の言葉「絶えず発展していく時代の中で、人類は各自が自衛本能を働かせ、素早く順応し続けてきました。個人の発展は変化する環境に順応することから始まります」が、印象に残っています。変化し続ける環境に順応しながら発展する努力を忘れてはならないと、現代の私たちに重要な課題の一つとして残された言葉のように感じます。

司 会 そうですね。そのための勇気ある行動が求められています。どのような行動が考えられるでしょうか。伊庭さんいかがですか？

伊 庭 もしも、たまたま知り合いから ITC のことを紹介されて、「コミュニケーション能力の向上」という言葉で説明されても、入会していたかどうかは疑問です。現代の女性は多方面での活躍も著しく、仕事を持つ女性も多くいます。さまざまな分野で結果を残し、輝く女性が増えていると感じる昨今ですが、その「輝く女性像」が以前とは変化してきているのではないのでしょうか。それは、若い世代だけが感じていることではなく、現代に生きている人たちが皆、感じていることだと思います。

ITC 会員の皆さまとお話しをすると「ITC が大好きなのよ」「ITC ってお勉強できるし得るものもたくさんあって素晴らしいわよね」などと耳にします。そして皆さん、とても熱心にご活躍されていらっしゃるなあと感じます。それなのになぜ、近年、ITC の会員が減るのでしょうか？なぜ、ご家族、ご親戚は会員にいらっしゃるのでしょうか？

理由はさまざまあるでしょう。「仕事を持っているから」「子育てで時間がない」でも、恐らく、ここにいらっしゃる ITC-J 歴の長い皆さまは、子育てをしながらでも、仕事をしながらでも、時間をやりくりしながら ITC-J 活動をやってこられたと思います。一体今と何が違うのでしょうか？ ご親戚に入会を勧めないのはなぜでしょう？

今、皆さんの頭のなかに浮かんだ理由、それこそが今 ITC-J の直面する問題なのではないのでしょうか。変化してきている世の中で、守らなければいけないものもあり、でも、一方では柔軟に考えて変わっていかなければ進まないこともあります。「輝く女性像」の過去と現在のギャップを擦り合わせていかねばならないと考えます。

司 会 柔軟に考えて変わっていかねばならない部分もあると思います。

谷本さんはいかがですか？

谷 本 会員を増やすためには変わらねばならない部分もあると思いますが、私は従来から行われている会員を介して紹介する方法がやはりベストだと思います。もう一つの方法として、多くの方に ITC-J を知っていただくには、インターネットの利用は避けて通れない時代だと思います。今は何かを始めたり、調べ物がある時はネット検索をする時代です。facebook や instagram からの情報も自然に目に入ってきます。ITC-J の認知度を高めるには大切な手段の一つだと思います。これらを利用して直接会員募集を呼び掛けるのではなく、ITC-J がどのような会なのか、また、魅力も伝えられるように、紹介するときの内容はしっかり吟味しなければなりませんと思います。

次世代への発信には、ITC-J がこの時代の変化に即していることが大切だと思います。

司 会 谷本さんも、やはり時代の変化に即していることが大切だというご意見でした。富松さんはいかがですか。

富 松 何もかも新鮮に感じていた ITC-J も年数を重ねると全てがマンネリ化してしまいます。それを解決するには、やはりプログラム・教育の充実ではないかと考えます。そこで、新組織となる ITC-J に期待することは教育資料の充実です。カウンスル No.4 のホームページに掲載された他クラブの教育資料や、今期の ITC-J の「サポートビューロー」の紹介はとても素晴らしい企画だと思います。今後も、クラブ例会で活用できるような教育資料の作成をお願い致します。

改善していただきたいことは、西村会長の今期の目標でもある「事務とメールの簡素化」です。高齢化が進み会員が減少する中で、役割や CLO が重荷だという声が多く聞かれます。今後さらに簡素化が必要になるのではないのでしょうか。

司 会 今、若い三人から大きな問題提起がありました。では次にコミュニケーションについてお話を進めます。コミュニケーションは、ITC-J の柱の一つですから大切にしなければなりません。どのようにバランスを取っていけばよいのでしょうか。永嶋さんいかがですか。

永 嶋 コミュニケーションは付度？ ITC 宣誓は昔からコミュニケーション技術の向上をうたっています。けれど、スピーチや評価、ディスカッションの技術は確かに上達していきますが、最後につまづくのがコミュニケーションなのです。普段はとても楽しく盛り上がり上がっていい人ばかりなのに、ITC の事となると何だかぎくしゃくすることはありませんか。それは熱心さのあまりに違いありません。「あの人に頼んだのにで来ていない」「そんな事、聞いていない」などなど… 伝達技術の基本はほう・れん・そう。報告、連絡、相談ですが、それが上手く行っていないのは言葉の足りなさとその選択に配慮が足りない場合が多いと思います。

高い山の頂上を目指すには、高い志と周到な準備が必要です。そして頂上を目指すのにルートは一つとは限りません。「正しいと思うことは臆せず堂々と言う」だけではやはり若者の未熟さでしょう。目的を決して見失わずに伝える道を、そして頂上を極める道を選べる大人でいたいと思います。それには昨年のはやり言葉、「付度」でしょうか。勿論良い意味で誠意をもって相手の気持ちを思いやるのがコミュニケーションの基本ですね。変革とコミュニケーションの学びをこれからの ITC-J の基盤に据えて学んで行くのが大切だと思います。

司 会 変革とコミュニケーションの学びを基盤にすることが大切だというご意見です。では先輩の方々の温かなコミュニケーションに心動かされた経験がありましたらお聞かせいただけませんか。近本さん、いかがですか。

近 本 瀬戸内クラブ第1回スピーチコンテストに出場した時、また、第4期会長を経験した時、声が震え、上ずっていたのを今でも思い出します。私は、夫の仕事を手伝ってばかりいて「井の中の蛙大海を知らず」の人間でした。私を大きく変えたのは、カウンスル No.4 第10期の会計に就任させてもらった時です。その時の会長は、卓越したコミュニケーションとリーダーシップをお持ちの方で、優しく・分かり易く・指導して下さり、言葉では言い尽くせないほど、感謝しています。私の心を ITC への継続に導いてくださいました。カウンスル会合の前日に宿泊して、夜が明けるまで熱心に語り合ったこともあります。当時、私はまだ ITC の事が良く理解ができず、もっぱら聞き役でしたが、忘れられ

ない懐かしい思い出です。その会長と出会っていなければ、私の ITC 活動は続いていないと思います。出会いは本当に大切だと思いました。

ITC を続けているうちに少しずつ理解できるようになり、先ほど述べました「ITC 大好き人間」の言葉の意味も分かってきました。私は積極的に ITC の役目や課題に取り組んでいきました。ITC-J では役割を担当しないと成長しないし、理解もできません。積極的にしかも真摯に取り組むことが長い在籍につながった大切な点だと思います。

司 会 よい先輩に導かれて今があるというコミュニケーションとリーダーシップの基本のようなお話です。積極的に真摯に課題に取り組むことが大切ですね。

先輩会員のご意見をお聞きになって、谷本さんいかがですか。

谷 本 現在、私は仕事と家庭、義父母の介護をしております、思うように ITC-J 活動ができない状態です。今は大好きな趣味も習い事も全てできなくても構わないのですが、ITC-J だけは何とか続けていたいと思っています。この ITC-J の魅力をどのように言い表せばいいのか分からないと、常々思っていました。

そんな時、ある講演会で「楽しさの自給力」についてお話を伺う機会がありました。「楽しい」と感じられることは、読書であったり、ゴルフや映画鑑賞など、人それぞれあるが、「真の楽しさ」を得ることができるのは、①友達をつくる ②知識や情報を得る ③技術を身につける ④感謝される ⑤仲間ができる ⑥健康になることだそうです。全て ITC-J に当てはまると思われませんか。ITC-J は真の楽しさ、深い満足感を得るための条件をすべて満たしています。

会員を増やすための一つの方法として、ITC-J の認知度を上げなければもったいないと思います。そして ITC-J の魅力をメンバーが上手に知人に伝えながら、例会にお招きする。その際、ITC-J に興味を持って帰っていただけるよう、工夫することも大切な課題です。以上は ITC-J について、素直な気持ちで考えてみた結果の答えです。

司 会 ITC-J の真の楽しさを再認識させられる素直な思いが伝わってまいりました。

パネリストの方々には入会の動機や魅力・問題点や改善点などについて活発にご意見を交換していただきありがとうございました

先ず、皆さまが ITC-J が本当に好きで、真摯に学んでいる姿勢にはフロアーの皆さまも共感なされたことと思います。今、ITC-J は組織が新しくなったことで検討課題が山積していますが、組織を改善できる絶好のチャンスです。それらを踏まえて、今日のパネリストのご提言のまとめとしたいと思います。

- ①基本を踏まえた上でクラブに合った運営を自由に考え、新鮮な風を通す。
- ②過去を引きずらず、変えるべきは変える。
- ③積極的に ITC-J の役目や課題に取り組んでいくことが大切である。
- ④ ITC-J を他の人に説明するのが難しい。分かりやすい解説文がほしい。
- ⑤マンネリ化を解決するためにプログラム・教育の充実をさせる。
- ⑥この時代の変化に ITC-J が即していることが大切である。

これらのご提言を参考にして、それぞれのクラブの皆さままで話し合い、今後の活動に生かしていただければと思います。



ITC-J 宣誓

我々 インタラクティブ トレーニング イン コミュニケーション のメンバーは、世界中の相互理解促進のために、コミュニケーション技術と指導力の向上に努めることをここに誓います。
 We, as members of Interactive Training in Communication - Japan, hereby pledge to improve our communication and leadership skills, in order to achieve greater understanding throughout the world

カウンスルNo.4 第30期 第3回会合プログラム

会長テーマ 「未来に向けて共に進もう」 ～瀬戸内を囲んで～
 会合テーマ 「学び合おう！」

日時：2018年6月26日（火）11：00-15：30
 場所：福山ニューキャッスルホテル

インスピレーション

真の学者となるコツを教えましょう。
 その秘密とは、出会う人すべてが何らかの点で私の師であり、
 私はその人からその点を学んでいると考えることです。

ラルフ・ワルド・エマーソン

開 会	会長	成定正子	11：00
ITC-J 宣誓	九州クラブ会長	田中幸子	
インスピレーション	岡山クラブ会長	小倉千真理	
会長挨拶・来賓紹介	会長	成定正子	
ゲスト紹介	第二副会長	時光育子	
ビジネス	議長	成定正子	
審議	議長：成定正子	書記：島村忍	
役員就任式	インダクター	ITC-J 次期会長	加藤正枝（岡山あくら）

..... 昼食・資料物品渡し.....

プログラム 12：40

《クラブからのプレゼンテーション》

	プログラムリーダー	早間文子（福山）	
タイマー紹介	有馬みどり	川上佳代子（ひがし広島）	
出席者報告	登録委員長	近本節子（瀬戸内）	
コーディネーター紹介		服部英子（瀬戸内）	
次回会合案内	第31期第一副会長	光成史子（福山）	
クロージングソート	ひろしまクラブ会長	桑原美紀子	
閉 会	会長	成定正子	15：30

コーディネーター：服部英子（瀬戸内） コ・コーディネーター：日朝史子（瀬戸内）

九州クラブ

Charter Date 1977年7月6日



クラブ旗について

発足当時、会員皆で意見を出し合い、手作りしました。制作意図は、九州で最初に発足したクラブであるという誇りを持つというの意思だったと伝え聞いています。

クラブへの思い

永嶋 順子

九州クラブは、カウンスル No. 4 では一番の古参です。九州の地に最初に誕生したクラブであることは私たちの誇りであり、それに相応しくありたいと願ってきました。その間、カウンスル会合出席では、朝一番の列車に乗り、派遣員となれば、前泊は必至という時代を経て、現在は列車もやや増え、いくらか楽になりました。それでも早朝出発・夜になって帰宅に変わりありません。地方都市の通例として知名度を高めることはなかなか難しく、会員を増やすのは常に悩みの種です。その少ない会員のほとんどが仕事を持ち、地域社会のための奉仕に務め、なくてはならない存在です。オーナーとして会社の制服のまま例会当日を小刻みに出入りして出席する若い熱心な会員も存在します。そんな中で常に和気藹々、何とか時間をやり繰りして、さまざまな不便も楽しみに変え、協力し合ってまいりました。少しずつでも学んでいく喜びも共有してきたと思います。前期はクラブ創立40周年の記念例会のために、11名の会員が全力で活躍して盛り上げ、成し遂げることができ、いざとなったら大丈夫！と感激致しました。こういう機会に、若い会員たちの実力を実感できるのは、本当に幸せな時間です。

ただ時代は足早に変わってまいります。ITC-J 歴の長い会員は年を重ねました。先輩として、何とか次世代にバトンを渡し、時代に合わせた改革をして大好きな九州クラブを守ってほしい。それができるのは若い会員たちのエネルギーだと信じています。今はそれが一番の希望なのです。

ひろしまクラブ

Charter Date 1983年 8 月22日



クラブ旗について

会員からデザインを募ったところ、広島を印象づけるには、やはり原爆ドームを背景に平和の象徴であるハトを飛ばすのが良いという案にまとまりました。

ひろしまクラブは今期で35周年を迎えます！

重 中 祥 子

今期はチャーター会長が4回目の会長を受け、役員会や各委員会がタッグを組んで頑張っています。

現在チャーター会員は6名、30代から90代までの厚い年齢層ですが、高齢でも若くても平等にいろいろな役割を担っています。

会員のカラーは、一言で言えば真面目な人が多いことでしょう。ですから他所のクラブの方からよく「堅い」とか「レベルが高そう」「窮屈そう」などと言われていますが、多分中に入ってみたら、それぞれの人がそれぞれの魅力を醸し出し、楽しくお気楽に、自分の場所を確保しているのに気付かれるでしょう。

会員歴の長短に拘わらず多才な人が多く、そのことからお互いに刺激し合い、輝いています。

それぞれの個性の違いで、個々に求めるものも違っていると思いますが、その違いがまた居心地の良い雰囲気を作り出しています。そして一人一人のITC-Jに対する熱意が、皆さんのレベルアップに繋がっていると思います。

今はITでコミュニケーションを取ることが多い時代だからこそ、ITC-Jのようにお互いの顔を見ながら学んで行く、このシステムがとても貴重に思えます。

金子みすゞの「みんなちがって みんなよい」。それがひろしまクラブです。

7月19日（木）、ホテルグランヴィア広島にて、35周年記念例会を開催致します。

福山クラブ

Charter Date 1986年 4月24日



クラブ旗について

「バラのまち福山」に因んで、バラの花をモチーフに選びました。チャーター会員が何度も集まり、デザインから刺繍まで完全な手作り。新しいクラブに新しい旗。わくわくしながら作りました。

のびのびと楽しんでいきます。

梅谷 由加里

福山クラブは1986年9月に産声を上げました。初代会長は武田綾子さん、会員数26名でのスタートでした。

現在32期目を迎えています。今期の9月例会で新入会員の導入式を行い会員数は24名になり、さらに2月例会で新入会員を迎えることができました。30年以上の継続会員が9名、10年未満の会員が16名、中間層の会員がいないクラブです。先輩会員は本当に優しく、親切で、会員歴や年齢を問わず仲が良いのがクラブの自慢です。

今期のクラブテーマは「新しい発見～変化を楽しもう～」です。目標は「常に自分の良いところ、人の良いところを見つけて褒め合う」「新しい事にチャレンジする」なので、例会では比較的会員歴の短い会員にもどんどんお役をお願いし、ただ参加するだけでなく、体験することを意識しています。今期のスピーチコンテストでは、スピーカーは4人共入会3年未満の会員が出場しました。初めて体験することへのサポートが素晴らしく、緊張したり、不安を抱えたりしながらも、やってみようと思えるのは、やはり先輩会員の「愛」があるからだと思います。そのおかげでチャレンジの機会をたくさん頂き、のびのびと例会を楽しんでいます。例会後には、必ずと言っていいほど良かったところを褒めてくださるので、それが力になっています。

クラブを盛り上げ継続させて行くためには、増員や新しい会員の教育は必須になってきます。クラブの宣伝にと作成されたリーフレットを配ったり、施設に置かせて貰ったりしています。スピーチコンテストや毎月の例会にゲストをお呼びし、ITC-Jで学んでいる事を実際に体験していただくことが、一番早く良さを伝える方法になると思っています。多くの方々に知って貰えるよう、これからも声を掛けていきます。

楽しいクラブであれば人も集まり、それに伴って活気も出て来ると思いますので、これからも ITC-J の良さを、また福山クラブの良さを伝えていきます。

岡山クラブ

Charter Date 1986年6月12日



クラブ旗について

デザインは洋画家、築部ゆりの「世界に誇る夢の架け橋・瀬戸大橋」をイメージ。深みのある美しい黒色のドイツ製ベルベットを使用して会員が手作りしました。

伝統を守りつつ新しいクラブへ

小倉 千真里

岡山クラブの魅力は、会員一人一人が与えられたお役に真面目に取り組むことで、お互いが刺激し合い、どの例会もレベルの高さを維持しているところだと思います。

例会はいつも和やかで笑いに包まれています。

会員に例会が楽しいと感じていただけるよう、プログラム・教育委員会のメンバー全員で次回行うプログラムが円滑に行えるよう、アイデアを出し合っています。毎回の例会の準備をきちんと行うことが質の高い例会を保つ上で重要だと思います。

現在、岡山クラブの構成は5年以内の新入会員、チャーターメンバー、中間の会員歴の会員の数がほぼ同数です。これからの岡山クラブの課題は入会年次の異なる会員の融合ではないかと思っています。新しく入会した会員のレベルが高く、ITC-Jで学んでいるはずの私たちが脱帽することもしばしばです。ITC-Jの事だけを知らないだけで他の事は何でも良くでき、優秀です。若い会員の活躍でベテランの会員も刺激を受け、クラブ全体の活性化につながっています。伝統を踏まえながら新しいことを受け入れ変わっていかないと組織はマンネリ化していきます。

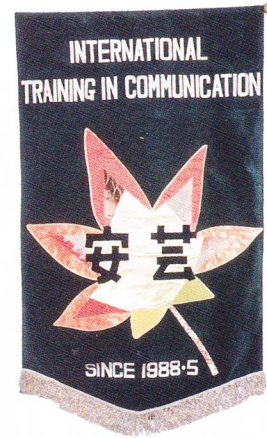
岡山クラブは次期役員が決まりました。会長をはじめとするベテラン会員が3人、新しい会員が3人のフレッシュな役員会です。岡山クラブの伝統のきちんとした雰囲気を保ちつつ、新しい岡山クラブを創造していただくと期待しています。

安芸クラブ

Charter Date 1988年4月5日



30周年記念例会 2018年4月13日



クラブ旗について

もみじの葉のように、手のひらを思い切り広げて、何かを求めてITC-Jの活動を開始しようとの意欲を持って作成されました。

安芸クラブは今期、30周年を迎えました。

萱島 頼子

会員の構成は、創設にかかわったメンバー、クラブの再生に力を尽した重複メンバー、中堅メンバー、新しいメンバーと、とても多彩です。老若男女、個性豊かで、明るく前向きな会員が多く、みんなで楽しく学んでいます。

現在の会員数は30名（4/13現在）ですが、今の状況になるまでに、クラブの再生に取り組んできた歴史があります。

1988年の設立時は29名でスタートしましたが、会員の減少で、6名の状態が続き、カウンセルや重複会員の力を借りて、まずは、会員の増員をとということで、20人、25人、30人体制をと各期で目標を掲げて取り組んでいます。

30人例会を目指すのは、この組織の他にはない独自のトレーニングプログラムを有効に活用でき、皆がお役を体験できると考えるためです。

30周年記念を迎えるにあたり、私たちは、ITC-Jの中で最強のモデルとなれることを目指し前進するというビジョンを描き、テーマを「人はチームで磨かれる」としました。会員一人一人が人間力を磨きながら、グループの中で成長を遂げていこうと思います。

メンバーは果敢にお役にチャレンジし、新しい会員が加わるたびに、勇気と希望を与えてくれています。これからも互いを大切にしながら進んでいきます。

岡山あくらクラブ

Charter Date 1990年6月4日



クラブ旗について

皆で集めたあくらの葉を使って糸を草木染めし、織物の得意な会員がクラブ名を織り込みました。葉はフェルトを30枚に切り取り、一人一人が縫い付けました。

クラブ旗作成でより深まった絆

仁熊史枝

岡山あくらクラブのチャーター時の会長テーマ「絆」でした。その伝統は今のあくらクラブに引き継がれており、会員の結束力は強いです。

ここ数年毎年チャリティー茶会を続けています。茶会を催すのはなかなか大変ではありますが、その大変さを会員の結束力で補っています。そしてその収益金は東日本被災地、熊本地震被災地へ送っています。金額はささやかですが、気持ちが大切だと思っています。また、継続することが何より大切だと思っています。お茶会に出すお菓子も少しでも役に立てればと被災地から取り寄せています。

会員はみんな素晴らしい個性を持っていて、いろんなプログラムに挑戦し、その能力をしっかりと発揮しています。転勤や介護のために会員が減少したのは残念ですが、会員皆で力を合わせて、新入会員を一人でも多く入会してもらうように努力しています。そのためにも、これからはフレッシュな感覚を持って企画を立て、全員が楽しめる、そして勉強になるプログラムを作り、魅力のあるクラブにして行きます。それが会員全員の願いなのです。

あくらの葉で草木染めしたクラブ旗と同じように、チャーター時の記念品のハンカチも、草木染めで絞り模様にして、式典に参加して下さった方々にお配りをしました。こうした共同作業で、絆がより一層強くなったように思いました。これからもこのクラブ旗のもとに会員の絆を深めていきたいです。

瀬戸内クラブ

Charter Date 1992年2月7日



クラブ旗について

瀬戸内海の海の色を主体に、ベルベットでバラのまち福山のイメージで、縁取りはバラの花で飾りました。チャーター役員と手芸の好きな会員が制作しました。

ITC-J はエンドレス 一心を潤す良薬一

武市 福美

福山市の中心にそびえ立つ福山城は、新幹線が停車する JR 福山駅から徒歩 5 分の立地にあり、この街の豊かな歴史と文化を象徴する代表的な観光スポットです。日本 100 名城の一つとしても知られています。そのお膝元に 2 つのクラブがあり、福山クラブの妹クラブとして瀬戸内クラブが発足致しました。

ITC-J 会員は個性的でありながら、理念はみな等しく、その目標に近づくべく真摯に取り組み、切磋琢磨される学習姿に、魅力あふれる輝きを私たちは肌で感じてきました。

定員 30 名の会員が在籍していた時期もありましたが、これはわがクラブだけの問題でなく、現在は会員数が減少傾向になってきました。しかし ITC-J はエンドレスです。でも悲しいことに人はそういうわけにはいきません。エンドレスではありません。人が変われども決して変えてはいけないものがあります。

私たちが豊かなライフワークを考える時、健康な肉体を望みます。そのためには水と栄養は欠くことのできない必須条件です。肉体だけが健康であれば良いものではありません。心にも潤いのある水と栄養が必要です。

ITC-J は心に水と栄養を注ぐことのできる確かな良薬と言えるでしょう。その良薬は ITC-J の高い理念が、また会員の人柄から発したオーラは放すことができない赤い糸となって精神的な支えとなっております。

現在籍する会員たちは決して消えゆくことがない灯に、消すことのできない灯にほっとする暖かな明かりと温もりを与え、与えられる、今こそコミュニケーションの極意を体験してゆきます。世代を超えて伝えてゆかなければなりません。

福岡クラブ

Charter Date 1994年 4月 7日



クラブ旗について

福岡特産の博多帯を布地と縁取りに縫い付け、福岡クラブの文字は九州クラブの西村節子会員に書いていただきました。

学びの中で相互の信頼を構築

今村幸子

明るく、物怖じしない、それぞれ個性のしっかりした生活の場を築き、職業人として、また、主婦として、家事・育児の中で、自分磨きのために学ぶ会員は、単なる仲良しクラブでなく、学びの中で会員相互の信頼を構築してきました。

ITC が思いかけず解散になるのでは、と心を痛めた前期のクラブ例会でも、会員は、日本リージョンを柱にカウンスル No. 4 の各クラブとの連携を保ちながらの継続を選びました。自分の気持ちをしっかりとした言葉にして表現し伝える。他の人の言葉を虚心に聴き、しっかり受け取る。日本女性の不得意な点を無理なく自然に学習してきたわがクラブの会員を私は誇りに思います。

それぞれ、家庭の事情や、本人の都合で退会した人もあり、現在会員は少なくなっていますが、この精神は継続しています。年間テーマ「つなぐ」で今も脈々と生きていますと自負しています。新しく入会した会員からの新鮮な刺激と素晴らしい行動力をとても頼もしく感じています。新入会員導入は今後もクラブの大きな課題だと思っています

ロバート議事法による、ビジネスの進行、周到で無駄のない会議の流れは、会議をスムーズに進めてくれます。入会当初は何とも煩わしいと思っていましたが、今は2、3の私の関係する会議や、総会で審議や賛否の採択に活用して好評です。

ひがし広島クラブ

Charter Date 2006年8月1日



クラブ旗について

酒蔵の白壁が、風情ある町並みを残している酒都西条をイメージして作りました。

少しでも社会貢献できればと…

坂本 公子

ひがし広島クラブは8名という少人数クラブですが、每期役職に就き、学習の機会を得ることができ、大変だけど皆が団子となってがんばっています。毎回の例会も一人何役も抱えることもあります。皆、喜んでがんばっております。ビジネスはITC-J 宣誓から始まり、審議までキチンとやり、プログラムも少人数だからできるものを取り入れ、楽しんでいます。

クラブ定番のプログラム「体のリフレッシュ」をヨガの講師をしている井手畑裕紀会員が担当で毎回楽しんでいます。ゲストの人にも大好評となっております。

クラブの最大行事は「東広島市内小・中学生スピーチコンテスト」の開催です。教育委員会をはじめ、事業団、ITC-Jの皆さまのお力添えを頂きながら7回を重ねてきました。少人数のクラブで開催するということは、確かに大変ですが、小学生、中学生の堂々たる発表を聴くと本当に元気を頂き、励みとなっています。また学校訪問の時などに校長先生から「スピーチコンテストに出場することで、子どもたちが成長しました」と喜びの言葉をお聞きすると、疲れも何処に行ったのか…、クラブ全員で喜んでいきます。

毎회가初めて開催する思いで取り組んでいます。クラブ全員一人一人の発表の場として捉え、沢山の応援を頂きながら、少しでも社会貢献にお役に立てばと思ひ、がんばっていきます。すべての皆さまに感謝です。

「第8回東広島市内小・中学生スピーチコンテスト」(2019.2.11祝日開催予定)

バイリンガル 西条クラブ

Charter Date 2013年2月8日



年齢、国籍を越えて個性豊かに

三浦雅美

まずは、カウンスル No. 4 が30周年を迎えられましたこと、おめでとうございます。2018年1月から日本リージョンが正式に ITC-J となり、当バイリンガル西条クラブもそれに合わせて後期2月よりカウンスル No. 4 所属となりました。No. 4 の方々から温かい歓迎の言葉をたくさん頂戴し、クラブ員一同大変喜んでおります。諸先輩クラブの皆さま、今後共どうぞよろしくお願い致します。

少しクラブのことをご紹介しますと、2月現在、女性11名、男性2名、合計13名の会員が所属しています。子育て真っ最中の若いママさん、バリバリのキャリアウーマン、外国人、老老介護中の主婦、悠々自適の中高年女性&男性、また遠く他県から毎月足を運んでくれている会員もおります。バンドを組んでドラムを叩いている人、英語落語口演で世界へ出かけている人、海に潜って魚と戯れている人、民生委員として地域に貢献している人、アメリカ人男性など、年齢、性、国籍を越え、個性豊かなメンバーです。

当クラブの特徴と言えば、例会を英語と日本語で行うことです。もちろん外国人ゲストも訪問してくれ、お国紹介をしてくれるなど、国際交流も深まっています。

ゲストの国籍もインド、モンゴル、イラン、フィリピン、スリランカ、インドネシア等々数えたらキリがありません。

そして私たちの会が目指すところは、会員一同が「英語と日本語で楽しく学ぶ」をモットーに、それぞれの能力開発とレベルアップを図ることです。

このような個性豊かな老若男女がひとたび例会に集まれば、たちまち溶け合って、和気あいあいと楽しく学んでいるのですから、摩訶不思議！です。

今年の会長テーマは「CHALLENGE! 挑戦！」です。英語能力にも個々の差があり、忙しくて毎月出席できないなどさまざまですが、笑顔で頑張っています。

さて No. 4 には、入会20年、25年、30年と長く学んでおられる方が沢山おられることでしょう。「継続は力なり」と申しますが、いくつになっても自分を磨き続け、智慧を身に付け、成長していかれる姿は素敵で美しいと思います。記念すべき30周年を迎えられました No. 4 の一員として、バイリンガル西条クラブも精進してまいります。

カウンスル No. 4 30年の歩み



第1期 (1988～1989) 年間テーマ Never Give Up ～学びから実践する～

会 長 桑原美紀子
 第一副会長 山崎 文恵
 第二副会長 黒住千鶴子
 書 記 大野加津子
 会 計 米門 公子
 議会法規役員 ラッセル光子
 編 集 者 武田 邦子

会合テーマ&プログラム

- 第1回：和（なごみ）
 No. 4 発足記念パーティ
 第2回：ふれあい
 講演会「話し方のテクニック」
 ワークショップ「議事法」
 第3回：自分さがし
 スピーチコンテスト 優勝：菊地陽子（大分）
 ワークショップ「トピックのあり方」
 第4回：きずな
 役員就任式、朗読研修会、プログラム交流、CMT

第2期 (1989～1990) 年間テーマ 共に努力、共に新しき前進

会 長 黒瀬真紗子
 第一副会長 山崎 鈴子
 第二副会長 黒住 裕子
 書 記 難波 久佳
 会 計 太田 恵子
 議会法規役員 桑原美紀子
 編 集 者 加藤 照恵

会合テーマ&プログラム

- 第1回：共にスタート
 ワークショップ「議事法」「ユーモアスピーチ」
 第2回：みのり豊かに
 講演会「ITCを考える」
 第3回：勇気ある挑戦
 スピーチコンテスト 優勝：笹尾瑞恵（ひろしま）
 第4回：共に飛躍を
 ワークショップ「委員会を学ぼう」
 朗読研修発表会、役員就任式

第3期 (1990～1991) 年間テーマ Let's Shape up

会 長 宇都宮鏡子
 第一副会長 山田ミユキ
 第二副会長 佐山 昌子
 書 記 中村美奈子
 会 計 栗原 雅子
 議会法規役員 黒瀬真紗子
 編 集 者 宇藤真由美

会合テーマ&プログラム

- 第1回：Hand to hand
 デモンストレーション「評価」
 第2回：ふれあい
 講演「ITCと私」広瀬忠子日本リージョン会長
 第3回：さわやかにチャレンジ
 スピーチコンテスト 優勝：秋岡京子（大分）
 第4回：さわやかにバトンタッチ
 カウンスル次期役員・委員長研修会、役員就任式

第4期 (1991～1992) 年間テーマ 夢に日付を

会 長 武田 綾子
 第一副会長 小川 嘉子
 第二副会長 吉岡 裕子
 書 記 倉田 眞澄
 会 計 大本富美子
 議会法規役員 宇都宮鏡子
 編 集 者 姫井恵美子

会合テーマ&プログラム

- 第1回：初心にかえて
 レポート「ITC 世界大会分析」沖田道子
 コンテスト「理想の会議」クラブ対抗
 第2回：充実のきらめき
 講演「評価について」
 鶴飼恵津子 日本リージョン第二副会長
 第3回：ステップアップ
 スピーチコンテスト 優勝：桑原美紀子（ひろしま）
 第4回：更に前進
 カウンスル次期役員・委員長研修会、役員就任式

第5期(1992~1993) 年間テーマ より深い理解を

会 長 沖田 道子
 第一副会長 中村美奈子
 第二副会長 長谷川知世子
 書 記 青木 和恵
 会 計 石崎 慶子
 議会法規役員 武田 綾子
 編 集 者 伊塚真理子

会合テーマ&プログラム

- 第1回：アイディアの泉
 ワークショップ「プログラムのアイディア」・「議事法」・「コンテスト形式のスピーチについて」・「会則」
 第2回：コミュニケーション
 5周年記念例会「歴代ボード紹介」・「プログラムによるクラブアピール」
 5周年記念特別プログラム「初春ことば合わせ」
 第3回：開花
 スピーチコンテスト 優勝：杉本恵子（九州）
 第4回：より高く
 カウンシル次期役員・委員長研修会、役員就任式

第6期(1993~1994) 年間テーマ 生かし合い、爽やかに

会 長 黒住 祥重
 第一副会長 武田 邦子
 第二副会長 加藤 照恵
 書 記 米門 公子
 会 計 仁熊 史枝
 議会法規役員 沖田 道子
 編 集 者 難波 久佳

会合テーマ&プログラム

- 第1回：和やかに
 ワークショップ「ストーリーテリング」
 第2回：楽しく
 大会「ストーリーテリング」
 日本のお話芸「落語」
 第3回：聴く
 スピーチコンテスト 優勝：成定正子（ひろしま）
 第4回：積極的に
 カウンシル次期役員・委員長研修会、役員就任式
 朗読「京ことばによる源氏物語」

第7期(1994~1995) 年間テーマ 今を生きる

会 長 山崎 鈴子
 第一副会長 藤原 恵子
 第二副会長 重中 祥子
 書 記 白石ヒナ子
 会 計 坪島奈美江
 議会法規役員 加藤 照恵
 編 集 者 中村美奈子

会合テーマ&プログラム

- 第1回：学ぶ
 ワークショップ「ディベート」
 第2回：行う
 大会「ディベート」論題「夫婦は別姓にすべきである」
 広島市青年会議所会員 対 ITC 会員
 第3回：表す
 スピーチコンテスト 優勝：熊代百合子（岡山）
 第4回：伝える
 カウンシル次期役員・委員長研修会、役員就任式

第8期(1995~1996) 年間テーマ 変化の思索

会 長 中村美奈子
 第一副会長 沖田 道子
 第二副会長 片山 一子
 書 記 鳥巢 裕子
 会 計 六車紀代子
 議会法規役員 山崎 鈴子
 編 集 者 佐山 昌子

会合テーマ&プログラム

- 第1回：議事法クッキング
 ワークショップ「議事法」
 ワンポイント教育「マイクの3つのコツ」
 第2回：豪華アラカルト
 ワークショップ「国際会議にて」「スピーチって何?」「評価コンテスト」
 ゲットアクエインテッドゲーム「友達になろう」
 第3回：すてきなスピーチ召し上がり
 スピーチコンテスト 優勝：岡崎マリ子（岡山）
 第4回：役職の秘訣
 カウンシル次期役員・委員長研修会、役員就任式
 ワークショップ「スピーチ」

第9期 (1996~1997) 年間テーマ 学び合い、分かち合い

会長 佐山 昌子
 第一副会長 黒住 裕子
 第二副会長 坂宮 静
 書記 鴉田 孝子
 会計 児玉 晴代
 議会法規役員 中村美奈子
 編集者 花房八重子

会合テーマ&プログラム

- 第1回：書く
 講演「川柳」長谷川 光寛 (住職)
 報告「ITC 世界大会」黒住祥重
 第2回：伝える
 講演と実技「手話」「知っ得クイズ」
 第3回：聴く
 スピーチコンテスト 優勝：吉田瑠美子 (ひろしま)
 第4回：磨く
 カウンسل次期役員・委員長研修会、役員就任式
 各クラブ自慢のプログラム紹介

第10期 (1997~1998) 年間テーマ 熱意と向上を、明日へ

会長 大野加津子
 第一副会長 永嶋 順子
 第二副会長 前田 利子
 書記 成定 正子
 会計 近本 節子
 議会法規役員 佐山 昌子
 編集者 板谷 洋子

会合テーマ&プログラム

- 第1回：10年 感謝と飛躍
 10周年記念例会「歴代会長紹介」
 講演「人生をいきいき生きる」
 パネルディスカッション「自分を生きる」
 演奏「胡弓」
 第2回：学ぶ楽しさ
 クラブ例会のためのワークショップ
 「評価」「今日の話」「ロールプレイング」
 第3回：協力の耀き
 スピーチコンテスト 優勝：村山紀子 (岡山)
 第4回：明日のために
 カウンسل次期役員・委員長研修会、役員就任式
 クラブ運営研修会「楽しい動議・議事法」

第11期 (1998~1999) 年間テーマ 新世紀へのプロローグ

会長 中島 洋子
 第一副会長 黒瀬眞紗子
 第二副会長 石田キヨメ
 書記 遠藤 陽子
 会計 衛藤 元子
 議会法規役員 沖田 道子
 編集者 米門 公子

会合テーマ&プログラム

- 第1回：Change
 ワークショップ「70人の為のスピーチ」
 講演「自分を知ろう」
 第2回：Challenge
 講演「ディベートを学ぶ」
 第3回：Chance
 スピーチコンテスト 優勝：桑原美紀子 (ひろしま)
 第4回：Charm
 カウンセル次期役員・委員長研修会、役員就任式
 クラブ研修会「クラブ対抗ステージ」

第12期 (1999~2000) 年間テーマ より豊かな明日のために

会長 永嶋 順子
 第一副会長 片山 一子
 第二副会長 森 和子
 書記 安東 敦子
 会計 板谷 洋子
 議会法規役員 前田 利子
 編集者 原澤 達子

会合テーマ&プログラム

- 第1回：豊かに
 教育「ワークショップとは」
 第2回：高める
 ワークショップ「議事法を楽しく」
 「いきいきショートスピーチ」
 第3回：愉しむ
 スピーチコンテスト 優勝：成定正子 (ひろしま)
 第4回：あしたへ
 カウンセル次期役員・委員長研修会、役員就任式
 コミュニケーションゲーム「あなたは迷歌人」

第13期 (2000~2001) 年間テーマ 21世紀への変革は一愛・藍・アイをもって一

会 長 山崎 文恵
 第一副会長 成定 正子
 第二副会長 近本 節子
 書記 服部 英子
 会計 黒川美 暉子
 議会法規役員 永嶋 順子
 編集者 江副 智寿

会合テーマ&プログラム

- 第1回: Vivid
 講演「ITCの変遷」小林 令 (東京クラブ)
 ディスカッションを学ぶ「パネルディスカッション」「バズセッション」「フォーラム」
- 第2回: Intellectual
 ディスカッションを学ぶ「ディベートとは?」
- 第3回: Unique
 スピーチコンテスト 優勝: 山城貴美子 (徳山)
- 第4回: Earnest
 カウンسل次期役員・委員長研修会、役員就任式
 ディスカッション「お国言葉を使って」

第14期 (2001~2002) 年間テーマ Active & Flexible

会 長 仁熊 史枝
 第一副会長 遠藤 陽子
 第二副会長 倉田 眞澄
 書記 杉原悠 紀子
 会計 豊田 麗子
 議会法規役員 山崎 文恵
 編集者 中島 洋子

会合テーマ&プログラム

- 第1回: 学ぼう話術を
 講演「スピーチを学ぶ」木下通之様 (サンガリアクラブ)
- 第2回: 受け止めよう素直に
 講演「評価の技術を学ぶ」三宮晶子 (阪神クラブ)
 ワークショップ「対話による評価」
- 第3回: 伝えよう思いを
 スピーチコンテスト 優勝: 永嶋順子 (九州)
- 第4回: 期待をこめて明日へ
 カウンセル次期役員・委員長研修会、役員就任式
 講演「メディアリテラシー」田上時子

第15期 (2002~2003) 年間テーマ 基本を大切に、リーズナブルな学習

会 長 片山 一子
 第一副会長 沖田 道子
 第二副会長 藤田 令子
 書記 井上 弘子
 会計 本山 節子
 議会法規役員 大野加 津子
 編集者 安東 敦子

会合テーマ&プログラム

- 第1回: 積極的な参加を
 ワークショップ「言葉のコミュニケーション」「スピーチと評価」「ディベート」「マスターマニュアル」「テーブルコーディネート」「組織運営」「初級の議事法」
- 第2回: 知的な好奇心を
 15周年記念講演「ロバート議事規則と私」
 安藤仁介様 (同志社大学教授)
- 第3回: 効果的なスピーチを
 スピーチコンテスト 優勝: 奥本美智子 (尾道)
 ゲーム「他己紹介」
- 第4回: 次へのステップを
 カウンセル次期役員・委員長研修会、役員就任式

第16期 (2003~2004) 年間テーマ Slow & Steady

会 長 米門 公子
 第一副会長 石黒 慶子
 第二副会長 中島 洋子
 書記 平地 桂子
 会計 光成 史子
 議会法規役員 山崎 鈴子
 編集者 鴉田 孝子

会合テーマ&プログラム

- 第1回: Cheerfully Study
 講演「よくわかる日本語」小島孝幸様 (日本語表現指導者)
 自己表現と自己主張 (アサーション) and ロールプレイ
- 第2回: How to Appeal
 スピーチコンテスト 優勝: 西村節子 (九州)
 勉強会「会則改正」
 世界の文化と歴史「フォークダンス」
- 第3回: For the Next Stage
 カウンセル次期役員・委員長研修会、役員就任式

第17期 (2004~2005) 年間テーマ 内への充実・社会への接点

会 長 土田美奈子
 第一副会長 塚崎 彰子
 第二副会長 佐山 昌子
 書 記 畑山 英子
 会 計 永井 信
 議会法規役員 片山 一子
 編 集 者 早津 聡子

会合テーマ&プログラム

- 第1回：今、ITCは
 講演「ITCは今」 泉 和子 ITC国際副会長
 プレーンストーミング「ITCの良いところ・改善するところ」
 第2回：ことばの力
 スピーチコンテスト 優勝：重中祥子（ひろしま）
 ミニコンサート「ギターとフルートの演奏」
 第3回：繋ぐ
 カウンسل次期役員・委員長研修会、役員就任式
 講演「儀典について」盛田純子

第18期 (2005~2006) 年間テーマ 改革への新たな挑戦

会 長 近本 節子
 第一副会長 児玉 明美
 第二副会長 阿部 和子
 書 記 加藤 正枝
 会 計 松下 法恵
 議会法規役員 桑原美紀子
 編 集 者 村山 紀子

会合テーマ&プログラム

- 第1回：組み立てる力
 講演「企画の立て方」
 大野三恵子 日本リージョン第二副会長
 ミニワークショップ「企画書の作成」
 第2回：聴く力
 スピーチコンテスト 優勝：西村節子（九州）
 第3回：日本語の力
 カウンセル次期役員・委員長研修会、役員就任式
 講演「言葉とイメージ」中村克洋様（広島経済大学教授）
 ワークショップ「美しい日本語」

第19期 (2006~2007) 年間テーマ 共に実る（言える勇気と受け入れる心）

会 長 石黒 慶子
 第一副会長 沖田 道子
 第二副会長 金子三屋子
 書 記 早津 聡子
 会 計 溝田 泰子
 議会法規役員 米門 公子
 編 集 者 服部 英子

会合テーマ&プログラム

- 第1回：共に種を蒔く
 講演「福岡に於ける ITC 日本リージョン大会に期待する」
 石本美知子 日本リージョン会長
 オリエンテーション 寸劇「異星人」
 第2回：共に育つ
 スピーチコンテスト 優勝：岸本順子（岡山あくら）
 ゲーム「ブロークンスクエアーズ」
 第3回：共に味わい次期に伝える
 カウンセル次期役員・委員長研修会、役員就任式
 講演「文章作法」高橋一清

第20期 (2007~2008) 年間テーマ 伝統は革新の連続

会 長 高木 彬子
 第一副会長 皆川 迪子
 第二副会長 武田 綾子
 書 記 鴉田 孝子
 会 計 佐藤 幸枝
 議会法規役員 永嶋 順子
 編 集 者 米門 公子

会合テーマ&プログラム

- 第1回：革新は足元から
 フォーラム「刷新と再生」
 加藤啓子 日本リージョン会長
 小林 令 カウンセル No.8 議会法規役員
 第2回：革新は実践から
 スピーチコンテスト 優勝：島崎セツ子（ひがし広島）
 ITC 寄席「落語」六ツ家千艘様
 第3回：革新は新しい道をひらく
 20周年記念式典
 ITC 劇場「森が危ない！…変わらなければ生き残れない」
 カウンセル次期役員・委員長研修会、役員就任式

第21期 (2008～2009) 年間テーマ ITCの原点:コミュニケーションを大切に

会長	六車紀代子	会合テーマ&プログラム
第一副会長	桑原美紀子	第1回: 活力の源を学ぶ ワークショップ
第二副会長	板谷洋子	「リーダーシップの本質」 泉 和子 ITC 国際副会長
書記	時光育子	「評価を恐れない」 高木清子 日本リージョン議会法規役員
会計	山本映子	第2回: 活力の源を生かす
議会法規役員	黒住祥重	スピーチコンテスト 優勝: 高木彬子 (ひろしま)
編集者	土田美奈子	リラクスタタイム「表現を楽しむ:カラオケ」
		第3回: 活力の源を实らせる
		カウンスル次期役員・委員長研修会、役員就任式
		座談会「今期クラブ活動の成果と提言」

第22期 (2009～2010) 年間テーマ チャンスを生かして、ホップ・ステップ・ジャンプ

会長	早津 聡子	会合テーマ&プログラム
第一副会長	村山 紀子	第1回: HOP
第二副会長	豊田 麗子	ワークショップ「心をつなぐ」河村正一様
書記	武市 福美	第2回: STEP
会計	児玉 晴代	スピーチコンテスト 優勝: 坪島奈美江 (ひろしま)
議会法規役員	六車紀代子	リラクスタタイム「感覚を磨く」
編集者	原 順子	第3回: JUMP
		カウンスル次期役員・委員長研修会、役員就任式
		講演「PREMの力」高橋和子 (阪神クラブ)

第23期 (2010～2011) 年間テーマ 豊かな経験・確かな成長

会長	服部 英子	会合テーマ&プログラム
第一副会長	佐藤 睦子	第1回: 学び
第二副会長	山本 映子	講演「今、大切なもの」小鍛治元慎様 (井山寶福寺住職)
書記	松田 恭子	ワークショップ「あなたとわたし」
会計	和田 晴子	大野三恵子 元リージョン会長
議会法規役員	石黒 慶子	第2回: 経験を生かして
編集者	武市 福美	スピーチコンテスト 優勝: 伊達富子 (福岡)
		いやしのプロムナード「ピアノ演奏」
		第3回: 希望
		カウンスル次期役員・委員長研修会、役員就任式
		ワークショップ「非言語コミュニケーション」六車紀代子

第24期 (2011～2012) 年間テーマ つなぐ

会長	豊田 麗子	会合テーマ&プログラム
第一副会長	杉原悠紀子	第1回: 伝える力
第二副会長	溝田 泰子	講演「スポーツと学業」奥島孝康様 (元早稲田大学総長)
書記	倉田 眞澄	第2回: 聴く力
会計	富松香余子	スピーチコンテスト 優勝: 溝部佳子 (大分)
議会法規役員	近本 節子	癒しの音楽「クラシックギター」
編集者	加藤 照恵	第3回: つなぐ力
		カウンスル次期役員・委員長研修会、役員就任式
		ワークショップ「心と心をつなぐアサーション」

第25期 (2012～2013) 年間テーマ 膨らむ夢～更なる充実

会 長 吉岡 裕子
 第一副会長 米門 公子
 第二副会長 河辺 佑子
 書 記 平重 映子
 会 計 重中 祥子
 議会法規役員 沖田 道子
 編 集 者 永嶋 順子

会合テーマ&プログラム

- 第1回：見つめよう
 25周年記念式典
 講演・ワークショップ
 「現代的リーダーシップのススメ」筒井徹也様
- 第2回：届けよう
 スピーチコンテスト 優勝：永嶋順子（九州）
 今日の話題
- 第3回：羽ばたこう
 カウンسل次期役員・委員長研修会、役員就任式
 ワークショップ「評価は難しいですか」
 山中千佳子様（Office I.C.S.）

第26期 (2013～2014) 年間テーマ 「温故知新」～波動を感じて

会 長 加藤 正枝
 第一副会長 近本 節子
 第二副会長 井上 弘子
 書 記 橋本 きくえ
 会 計 佐藤 千恵
 議会法規役員 豊田 麗子
 編 集 者 和田 晴子

会合テーマ&プログラム

- 第1回：共鳴する
 講演会「ストレス社会を生きる—ぶれない私（人格）の確立を」湊 晶子様（前東京女子大学学長）
- 第2回：共感する
 スピーチコンテスト 優勝：川崎邦子（岡山）
 ミニコンサート「琴・ハーモニカ」
- 第3回：共有する
 カウンセル次期役員・委員長研修会、役員就任式
 ワークショップ「即興スピーチと評価」

第27期 (2014～2015) 年間テーマ 「慈しむ」～よい明日を目指して～

会 長 村山 紀子
 第一副会長 五十嵐起久代
 第二副会長 吉田瑠美子
 書 記 村上 洋子
 会 計 青木 和恵
 議会法規役員 米門 公子
 編 集 者 富松 香余子

会合テーマ&プログラム

- 第1回：笑顔
 教育「ビジネス」中島由美子 日本リージョン会長
 ワークショップ「クラブ模擬例会」
 うっとりタイム「チェロ」
- 第2回：素顔
 スピーチコンテスト 優勝：小倉千真理（岡山）
 ゆったりタイム「朗読」小林大輔様
- 第3回：真顔
 カウンセル次期役員・委員長研修会、役員交替式
 ワークショップ「スピーチの構成」城戸幸子（柏クラブ）
 すっきりタイム「今日のからあなたもスピーチ上手」
 山口久美子（葦崎クラブ）

第28期 (2015～2016) 年間テーマ 「絆を深めて」

会 長 仁熊 史枝
 第一副会長 早津 聡子
 第二副会長 金子三屋子
 書 記 川崎 邦子
 会 計 早間 文子
 議会法規役員 村山 紀子
 編 集 者 藤井 啓子

会合テーマ&プログラム

- 第1回：助走
 教育・ワークショップ「エニアグラムの知恵に学ぼう」
 寺澤重光様・木村秀幸様・木村 泉様
- 第2回：力走
 スピーチコンテスト 優勝：佐山昌子（岡山）
 「英語落語」高山敦子・乙野靖子（北摂クラブ）
- 第3回：完走
 カウンセル次期役員・委員長研修会、役員就任式
 講演「ヒトの知的行動とコミュニケーションの幕あけ」
 妻井令三様
 ワークショップ「アサーション～ユマニチュードの手法を学ぼう」

第29期 (2016～2017) 年間テーマ 「会員の結束と思いやり」

会 長	重中	祥子
第一副会長	村上	洋子
第二副会長	青木	和恵
書 記	田島	久子
会 計	藤井	啓子
議会法規役員	河尻	公子
編 集 者	米門	公子

会合テーマ&プログラム

- 第1回：リーダーシップ
講演「組織とリーダーシップ」
高木清子 前日本リージョン会長
バズセッション「カウンスルの未来を考える」
- 第2回：メンバーシップ
スピーチコンテスト 優勝：吉田瑠美子（ひろしま）
講演「メンタリング」杉谷和代 日本リージョン CLO
- 第3回：フレンドシップ
カウンスル次期役員・委員長研修会、役員就任式
ワークショップ「ピンチはチャンス」
井上和子様（臨床心理士）

第30期 (2017～2018) 年間テーマ 「未来に向かって共に進もう！」～瀬戸内を囲んで～

会 長	成定	正子
第一副会長	前田	利子
第二副会長	時光	育子
書 記	島村	忍
会 計	小倉	千真理
議会法規役員	六車	紀代子
編 集 者	米門	公子

会合テーマ&プログラム

- 第1回：繋がろう！
30周年記念会合 クルーズ船「銀河」にて開催
講演「瀬戸内の歴史を識る」濱田敏彦様（広島経済大学教授）
- 第2回：伝えよう！
スピーチコンテスト 優勝：赤松明子（岡山）
パネルディスカッション「ITC-Jを考える」
- 第3回：学び合おう！
「各クラブからのプレゼンテーション」
カウンスル次期役員・委員長研修会、役員就任式

1988年、九州、ひろしま、福山、岡山、安芸、大分の6クラブでスタートした
No.4のその後の変遷

	クラブ数	会員数	加入	脱退		クラブ数	会員数	加入	脱退
第1期	6	154			第16期	12	230	ふじ	
第2期	6	150			第17期	12	239		
第3期	7	177	岡山あくら		第18期	11	211	ひがし広島	ふじ
第4期	7	163			第19期	12	235		
第5期	8	189	瀬戸内		第20期	12	222		
第6期	8	190			第21期	12	242		
第7期	9	220	福岡		第22期	12	220		徳山
第8期	9	227			第23期	11	226		
第9期	10	251	徳山		第24期	11	208		
第10期	11	268	尾道		第25期	11	192		
第11期	11	261			第26期	10	178		尾道
第12期	11	256			第27期	9	165		大分
第13期	11	253			第28期	9	168		
第14期	11	254			第29期	9	162		
第15期	11	234			第30期	10	188	バイリンガル西条	

★クラブ&会員数は各期の第1回会合時の数字。第30期のみは2018年4月1日現在のもの。

カウンスル No. 4 会長経験者による座談会

「来し方を振り返り、今、成すべきことは？」



開催日：2018年4月3日(火)
会 場：ホテルグランヴィア岡山

出席者：

第1期 桑原美紀子
第9期 佐山 昌子
第10期 大野加津子
第14・28期 仁熊 史枝
第30期 成定 正子
第31期 金子三屋子

成定 ITC 国際の解散を受けて、日本リージョンは ITC-J と名称を変え、新たな活動を始めています。私たちカウンスル No. 4 も、この状況をマイナス思考で捉えるのではなく、これまでのことを振り返りながら、前向きに、今、成すべきことを模索していきたいと考えています。

今日は、長く ITC-J に在籍され、カウンスル No. 4 の会長経験がおありの方々に加え、来期会長に就任予定の方にもお集まりいただきました。「今後、こういう風になればいい」というようなことを基準に話し合い、忌憚の無いご意見をお聞かせいただけたらと存じます。

まず、会員数について考えてみたいと思います。現在、No. 4 には188名の会員がいます。一見安泰のように見えますが、会員が高齢化している現状を考えると、若い世代の会員を増やすことが喫緊の課題です。そのためにはどんな方法があるとお考えですか。

- ▶ 例会にお誘いしたくても、何を学んでいる組織なのか、言葉での説明が難しいですね。分かりやすいリーフレットがほしいです。
- ▶ 私のクラブでは、Facebook で例会の様子を紹介しています。若い人が結構見

てくださっているようですよ。今どきの若い人は、足を運ぶ前に、まずネットで検索して選びますからね。写真だけでも上げておけば、興味を持ってくれる人がいるかもしれません。それに使い方も簡単です。

成定 今や若い人にとって、Facebook は大切な交流手段ですから、活用していきたいですね。

- ▶ 残念ながら、ITC-J は知名度が低いですね。以前、広報になればと、公民館にリーフレットを置かせていただきたいと思ったのですが、ボランティア活動をしていないという理由で断られました。ITC-J 宣誓には「世界中の相互理解促進のために、コミュニケーション技術と指導力の向上に努める」というくだりがあるのに、ボランティア活動は盛んではないですね。このことも知名度が低い原因の一つではないでしょうか。

- ▶ 知名度を上げたり、仲間を増やすには、積極的に社会へ出ていかないとね。出前講座なんかいかがですか。以前、地域の商工会議所で、スピーチについての講座を持たせていただいたことがあります。テーマを準備して、実際にスピーチの原稿をつくっていただきました。「日常生活の中で、こんな

ことを教えてくれるところはない」と言って、とても喜んでくださいました。「スピーチの達人」というのではなく、人前でちょっとした話ができるようになりたいという方が結構いらっしゃるんだなと思いました。

ほかにも評価の仕方や会議の進め方など、出前講座として持っていけるものがありますよね。それらをあちこちで継続してやっていけば、ITC-Jの存在を知っていただけるのではないのでしょうか。

- ▶ 私の場合、30年以上も ITC-J に入会しているのですが、大抵のことはできるけれど、出前講座の講師ができるレベルかどうか、自信はないですよ。何でもできるけれど、何にもできないかもしれない。

成定 確かにそうですね。自分が愉しむにはいいけれど、ボランティアとはいえ、出前講座となると、もっとスキルアップする必要があるそうですね。

- ▶ やってみようという会員がチームをつくって、勉強をすればいいのではないですか。
- ▶ 願わくば、ITC-J にこういったボランティア活動を推進する部門が設置されて、カウンスルやクラブをリードしてくださるといいですね。

成定 会員に、充実した ITC-J の活動を続けていただくには、どうしたら良いのでしょうか。

- ▶ 私のクラブは会員数が少ないので、仕事が忙しくて休みがちの会員がたまに例会に出席されると、大事にし過ぎてしまうのですよ。役割を頼んでも、役員が準備万端整える。それなのに、総評では褒めまくる。これでは、ご本人に達成感を感じていただくことはできません。やはり、ご自身に体験していただくことが大切ですよね。最近、ちょっと後悔しているんです。
- ▶ 会員を引きつけるのは、クラブでもカウンスルでも、やはり魅力あるプログ

ラムでしょうね。優れたプログラムによって会員は磨かれていくものですし。

- ▶ 私たちのカウンスルはクラブが長い距離で繋がっているのですが、会合に出席するには、時間も費用もかかってしまいます。でも、その障害をクリアしてくれるのは、魅力あるプログラムだと思いますよ。

- ▶ カウンスル No. 4 の会員数は残念ながら減少していますが、カウンスル会合への出席者数はさほど変わっていません。カウンスルへの期待、関心は持っていていただいているんだなと感じました。

成定 さらに ITC-J を魅力的な組織にしていくには、プログラム・教育の充実が大切ですね。

- ▶ ITC-J では、会員が役職を経験することで成長していくという考えの下に、毎年役員がそっくり交代していますね。個人的な意見ですが、会長は前の期に第一副会長を経験した会員でなければいけないというルールをつくる必要があるのではないのでしょうか。というのも、せっかく良いプログラムを考案しても、次の期にも継続してやっていかなければ、成熟したプログラムに育て上げることはできませんよ。それぞれのクラブで、自慢のプログラムを作り上げることができたら素晴らしいですね。

- ▶ そのプログラムを持って、出前講座に出掛けることもできます。

成定 最後になりましたが、ITC-J そしてカウンスル No. 4 が私たちの楽しい学びの場であり続けるには、今、何を成すべきか、まとめていただけますか。

- ▶ ①若い世代にとっても魅力的なプログラムを育てていくこと。②積極的に社会へ出ていくこと、ではないでしょうか。入会していなかったら決して出会うことのない方たちに逢い、共に学ぶことができる ITC-J は、貴重な宝物だと常々思っています。大切にしたいですね。

お便り紹介

大分クラブ解散後も無所属会員として残ってくださっていた安東敦子さん、橋本きくえさん、豆田ハルミさんが、今期で退会されます。お便りが届きましたので皆さまにもお読みいただきたく、ご了解を得て、掲載致します。 第30期会長 成定 正子

この数十年、ITC-Jは生活の一部でした。皆さまに導いていただき楽しみ、学び、豊かな時間を過ごしてきたこと、幸せでした。例会、会合や年次大会でお目にかかる方々に憧れの思いを抱き、努力したいと自身を励ますことも度々でした。温かいお心遣いに感謝の日々でした。本当にありがとうございました。

どこかでまたお目にかかれる日が来ますよう願っています。

安東 敦子

個人会員として、悩みながらもITC-Jとの縁をつないでいたいとの思いから、これまで学ばせていただきました。苦しみながらも楽しい学びの場であり、お世話になったおかげで、あらゆる場面での不安を自信に変える勇気を頂きました。

皆さまとの素晴らしい出会いに感謝しています。

橋本きくえ

最初に例会会場に足を踏み入れた時、経験したことのない空気に気押されたことが懐かしい。ギャベル、宣誓など初体験のことが多く、驚き、魅せられた。福岡での年次大会では、女性の底力を見た気がした。5年目にクラブ会長に。仲間や九州クラブの協力で乗り切れた。以後、彼女たちと会えば気持ちに通じる大切な友人。

ITC-Jのご発展とご活躍を心よりお祈り致します。

豆田ハルミ

編集室から

編集作業を終え、スタッフに一問一答、ITC-Jへの思いを尋ねてみました。

米門：自他共に認める「ITC-J大好き人間」の沖田さんにとって、ITC-Jの一番の魅力は？

沖田：ITC-Jって、さまざまな能力を引き出してくれる組織ですね。だから奥が深い！

米門：今期、カウンスル会長を経験されて、どんなことを強く感じましたか？

成定：会合で活躍される会員を拝見して、クラブレベルで学んだことをさらにStep Upさせるために、カウンスルという舞台あるんだなと実感しました。

米門：第一副会長の前田さんはいかがですか。

前田：No.4のクラブは広範囲に存在しているせいか、個性豊かで、すてきだと感じました。

米門：村山さんはITC-Jの編集もされていますね。会報の役割をどう捉えていますか。

村山：ITC-Jは素晴らしい組織だと思うし大好きですから、会報で魅力を余さず伝えたいです。

米門：ITC-J歴の浅い渡辺さん、「30年の歩み」を担当されて、感じるものがありましたか。

渡辺：第1期から入会していたら、女性・人間として大きく成長できたかもしれませんね。

カウンスル No. 4 の皆さまへ

記念誌制作に当たり、さまざまなご協力を頂き、ありがとうございました。

編集室

編集者 米門 公子
スタッフ 成定 正子、前田 利子、沖田 道子
村山 紀子、渡辺 遙子

発行日	2018年6月26日
発行	ITC-J カウンسل No. 4
発行責任者	カウンシル No. 4 第30期会長 成定 正子
制作	カウンシル No. 4 30周年記念誌編集室
印刷	株式会社ユニバーサルポスト

